

徳島県学校マネジメント・学力向上実行プラン

－ 報 告 書 －

徳島県学校マネジメント・学力向上戦略会議

はじめに

徳島県学校マネジメント・学力向上戦略会議は、平成20年度から実施されている徳島県学校改善支援プランに基づく取組等の成果と課題を検証し、各学校及び家庭・地域の連携のもと、本県児童生徒の確かな学力の向上に向けた更なる改善を図ることを目的に、平成24年8月に20名の委員により設立されました。

以来3回の委員会を開催するとともに継続的な意見交換を行い、学校マネジメント・学力向上実行プラン及び課題解決に向けた具体的な取組等について検討を重ねてまいりました。

本報告書では、学校改善支援プランの基本的考え方を引き継ぎ、これまでの取組により各学校・園に定着した「徳島県版：『学力・学習状況』改善サイクル」の更なる充実を図るため、「学校マネジメント・学力向上実行プラン」を提示するとともに、徳島県が育てたい児童生徒像の「阿波っ子 学びのススメ10か条」や、課題解決に向けた具体的な取組として「学力向上実行プラン」及び「各教科等における『平成25年度の重点』」を示すことにより、本県公立小・中学校における教育活動の改善に資することをねらいとしています。

徳島県教育委員会におかれましては、本報告書を十分に活用し、各学校に対し引き続き学校マネジメント・学力向上のための具体的な支援策を講じていただくとともに、教育施策の検証改善を積極的に行い、「徳島県版：『学力・学習状況』改善サイクル」の確立を推進していただきますようよろしくお願いいたします。

最後に、本委員会の運営にあたり、御協力を頂いた皆様に心からお礼を申し上げます。

平成25年2月4日

徳島県学校マネジメント・学力向上戦略会議

目 次

第Ⅰ章 学校マネジメント・学力向上実行プラン

	ページ
I これまでの経緯	1
II 「徳島県学校改善支援プラン」に基づく取組の成果と課題	3
1 全国学力・学習状況調査の結果	
2 徳島県版：「学力・学習状況」改善サイクルの確立に向けた支援	
III 課題解決に向けた基本的な考え方	21
1 自ら考え、判断し、表現できる子ども ～みんなでする つづけてする とことんする～の継承	
2 学力向上方策の基本的な考え方	
IV 「阿波っ子 学びのススメ10か条」	23
自ら考え、判断し、表現できる子どもの育成	
V 「阿波っ子 学びのススメ10か条」実現のための4つの方策	25
1 組織マネジメントの確立に向けた取組の推進	
2 教育の質の向上	
3 家庭・地域と連携し、一体となった取組の推進	
4 外部人材の活用・社会とリンクした教育の推進	

第Ⅱ章 課題解決に向けた具体的な取組

I 「学力向上実行プラン」	32
1 「学校版：『学力・学習状況』改善プラン」の成果と課題	
2 PDCAサイクルの更なる充実に向けて	
II 授業改善に向けた取組の推進	39
1 現在求められている学力	
2 各教科等における「平成25年度の重点」	

委員長による提言

徳島県学校マネジメント・学力向上戦略会議委員一覧

第 I 章 学校マネジメント・学力向上実行プラン

I これまでの経緯

本県では、徳島県検証改善委員会の協力のもと、平成20年3月に、「みんなでする つづけてする とことんする」をキャッチフレーズとした「徳島県学校改善支援プラン」を策定し、課題解決に向けた具体的な取組を加えた冊子及び概要版リーフレットを作成した。県内全ての市町村教育委員会及び公立幼稚園・学校に配布するとともに、各種会合や研修会等において、策定の趣旨説明及び冊子等の活用による学力向上や学習状況の改善に向けた積極的な取組の推進を行ってきた。

この「徳島県学校改善支援プラン」においては、平成19年度全国学力・学習状況調査結果を基に、本県児童生徒の学力及び生活習慣・学習状況等について課題を明らかにし、家庭や地域との連携の中で、児童生徒に求められている学力の向上や生活習慣・学習状況等の改善について取り組むための、継続的な検証改善の確立に向けた方策や各学校における具体的な実践例について示している。

県教育委員会では、このプランに基づき、本県児童生徒の「確かな学力」の育成につなげていくため、各市町村教育委員会はもとより全ての学校に対し、「徳島県版：『学力・学習状況』改善サイクル」の確立に向けた4つのステップにおける7つの支援を実施している。

具体的には、課題解決に向けた基本的な考え方を明らかにするとともに、各学校における検証改善サイクルの確立に向けた「学校版：『学力・学習状況』改善プラン」の作成方法とプランに沿った具体的な取組等の提示、学力調査結果に基づくフォローアップ教材の開発・提供等を行っている。

さらに、平成21年度から全県的事業として「徳島県学校改善支援プラン」推進事業を展開し、児童生徒の学力向上や生活習慣・学習状況等の改善に向けた取組を推進してきている。

(参考)「徳島県学校改善支援プラン」推進事業 (H21～H24)

- ◇「徳島県学カステップアップテスト」(徳島県版「学力・学習状況調査」)の実施等による授業改善の推進
(小5・中2対象 教科：国語、算数・数学、学習状況等調査)
- ◇「学力向上推進員研修会」の開催、研修内容の充実
- ◇「学校ホームページを活用した学力向上に関する情報発信」の促進
- ◇「家庭学習の手引」の作成と活用による家庭学習習慣の定着化の促進
- ◇各学校の「学校版：『学力・学習状況』改善プラン」における数値目標の達成状況評価
- ◇「学力向上のための取組に関する調査」及び「学力向上に関する自己評価」の実施

(参考)「徳島県版：『学力・学習状況』改善サイクル」の確立に向けた支援(H21～H24)

ステップ1 学力調査結果を活用した課題把握

◆学力調査結果を効率的に集計・分析できないか。

【県教委の支援1】

・各学校において学力調査結果を集計・分析できるソフトの開発・提供

ステップ2 学校版：「学力・学習状況」改善プランの作成

◆学校が効果的・計画的に取り組むためのプランづくりはどのようにすればよいか。

【県教委の支援2】

・学校版：「学力・学習状況」改善プランの作成方法等の提示

ステップ3 学校版：「学力・学習状況」改善プランに沿った取組の推進

(1) 課題がみられた学力を育成するための研修及び授業改善

◆研修及び授業改善は具体的にどのようにしていけばよいか。

【県教委の支援3】

・校内及び各機関における研修内容の充実と優れた実践例の紹介
・授業改善のポイントや優れた実践例の紹介

(2) 児童生徒一人一人の課題に応じた学習指導の充実

◆児童生徒一人一人の課題に応じた学習指導に効果的な教材はないか。

【県教委の支援4】

・学力調査結果に基づくフォローアップ教材の開発・提供

(3) 課題がみられた生活習慣の改善

◆課題がみられた生活習慣の改善は、どのように進めればよいか。

【県教委の支援5】

・フォーラム等の開催、広報誌やホームページ等による啓発

(4) 子どもに向き合う時間の確保

◆児童生徒にかかわる時間をどのように確保すればよいか。

【県教委の支援6】

・児童生徒にかかわる時間の確保についての検討

ステップ4 チェック体制の構築と積極的な改善

◆学校間の取組のばらつきをどのように解消すればよいか。

【県教委の支援7】

・「学力向上に関する自己評価シート」の提供
・「学力向上のための取組に関する調査」の継続実施

Ⅱ 「徳島県学校改善支援プラン」に基づく取組の成果と課題

※◇は成果としてみられる項目、◆は課題としてみられる項目

1 全国学力・学習状況調査の結果

(1) 平成24年度調査における学力の状況

平成24年4月17日(火)実施

平均正答率(%)と全国との差

小学校第6学年・中学校第3学年対象(抽出調査)

		主として「知識」(A問題)			主として「活用」(B問題)		
		徳島県(公立)	全国(公立)	差	徳島県(公立)	全国(公立)	差
小学校	国語	82.7	81.6	+1.1	55.7	55.6	+0.1
	算数	73.5	73.3	+0.2	57.5	58.9	-1.4
	理科	67.7	69.1	-1.4	56.0	57.6	-1.6
中学校	国語	74.6	75.1	-0.5	61.4	63.3	-1.9
	数学	63.1	62.1	+1.0	47.1	49.3	-2.2
	理科	57.9	56.1	+1.8	46.6	47.8	-1.2

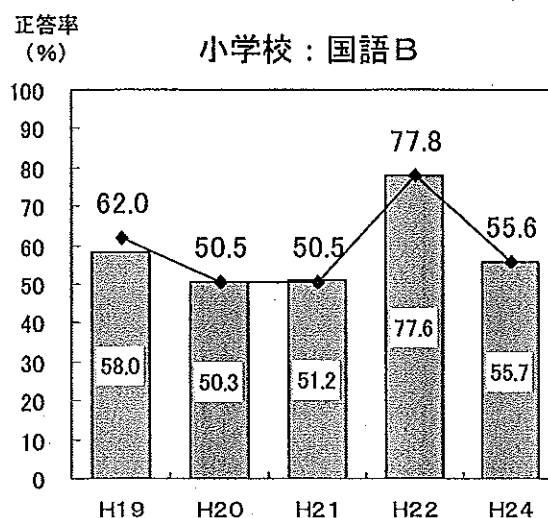
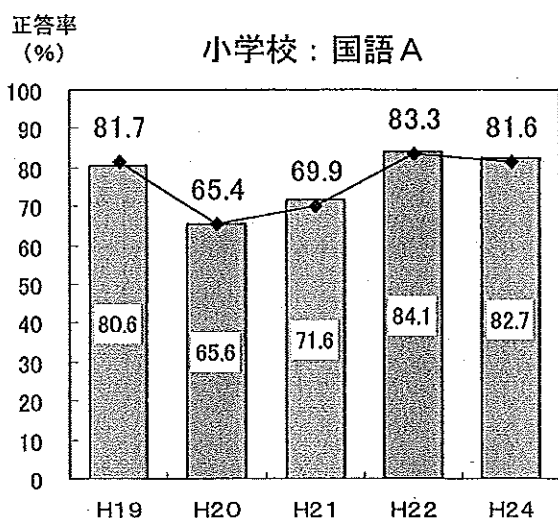
◇主として「知識」に関するA問題では、全国平均との差が-1.4~+1.8ポイントとなっており、今回出題された学習内容を概ね理解している。

◆主として「活用」に関するB問題では、各学年、教科ともA問題よりも正答率が10ポイント以上低く、全国平均との差が-2.2~+0.1ポイントとなっており、習得した知識・技能を「活用」する力に課題がみられる。

(2) 学力の状況の推移

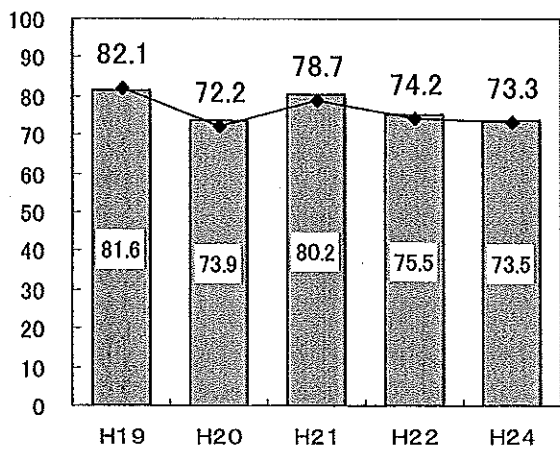
※平成23年度は震災等の影響により実施されていない。

※徳島県(公立)：棒グラフ 全国(公立)：折れ線グラフ



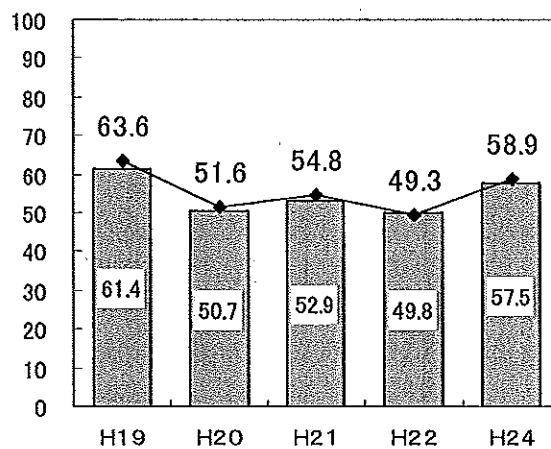
正答率 (%)

小学校：算数A



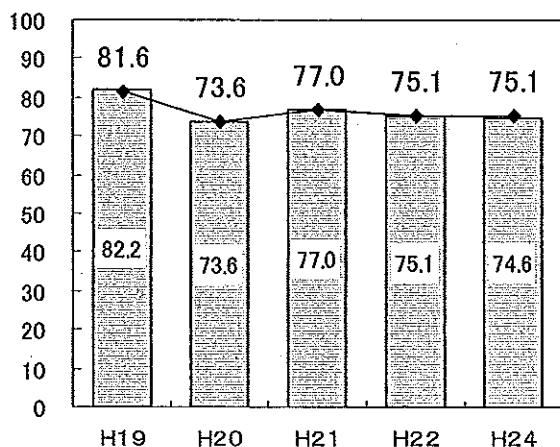
正答率 (%)

小学校：算数B



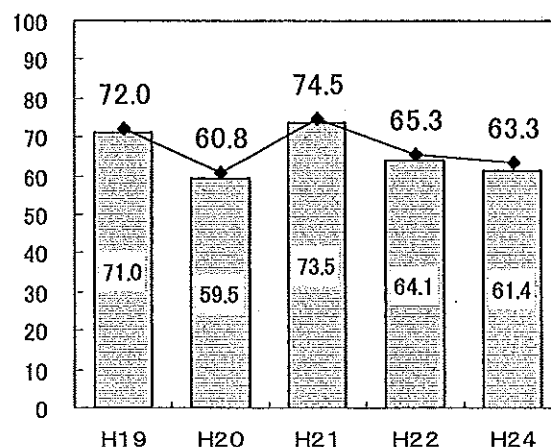
正答率 (%)

中学校：国語A



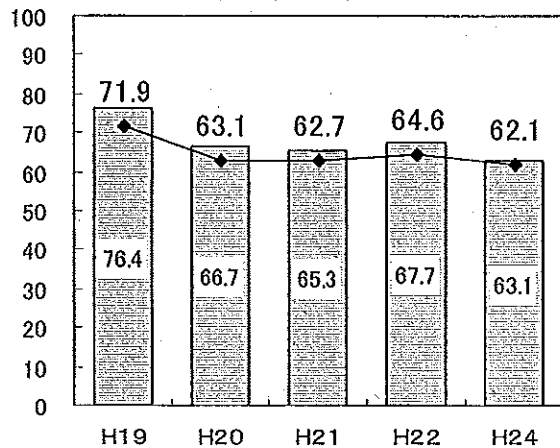
正答率 (%)

中学校：国語B



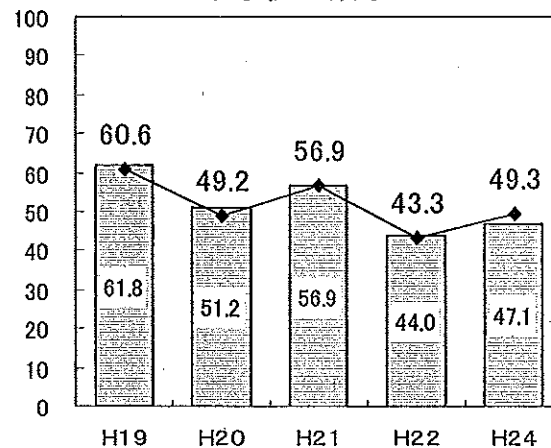
正答率 (%)

中学校：数学A



正答率 (%)

中学校：数学B

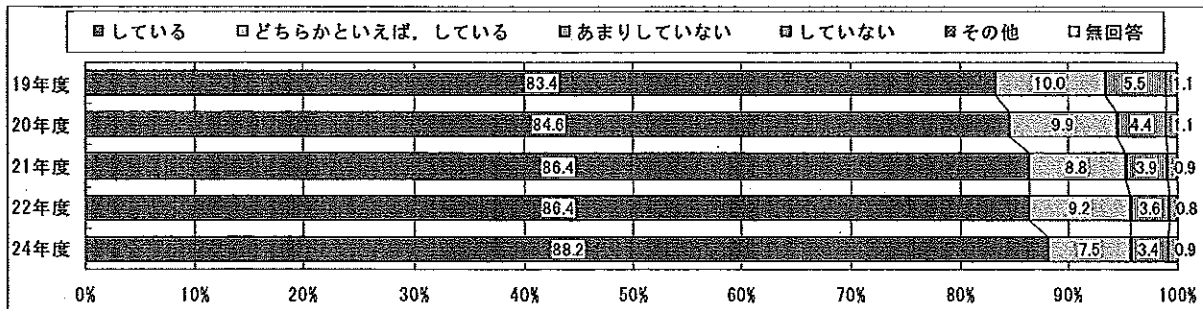


(3) 児童・生徒質問紙調査における生活習慣・学習状況〔徳島県(公立)〕(抜粋)

※質問項目によって、調査開始年度が異なる。

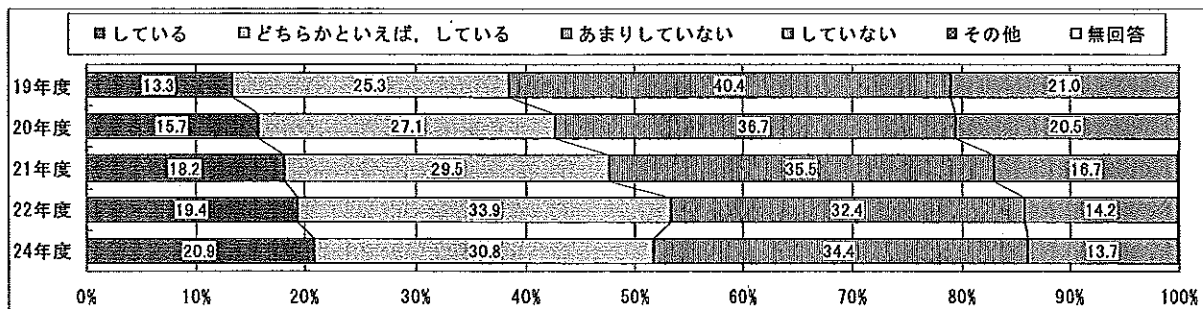
【小学校6年生対象】

〔問〕朝食を毎日食べていますか。



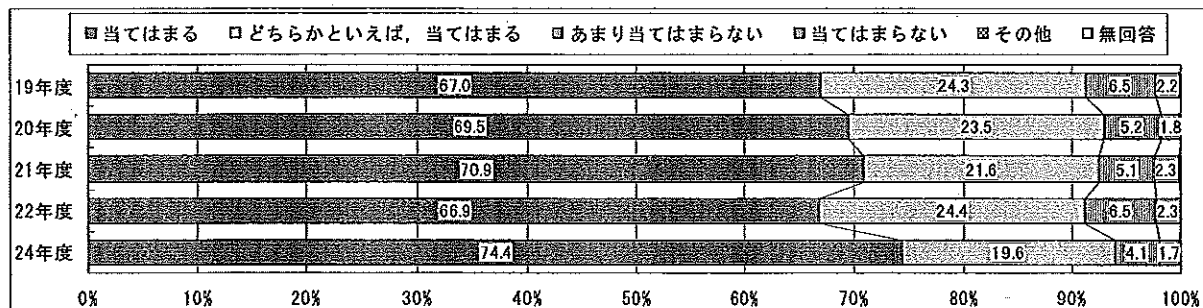
◆朝食を毎日食べている児童の割合に増加傾向がうかがえるが、全国平均より若干低い状況にある。

〔問〕家で学校の復習をしていますか。



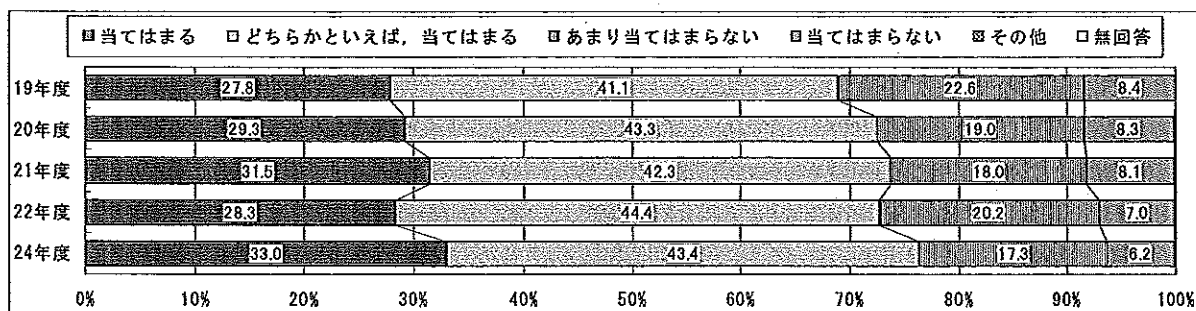
◇家で学校の復習をしている児童の割合に増加傾向がうかがえ、全ての調査年度で全国平均より高い状況にある。

〔問〕人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか。



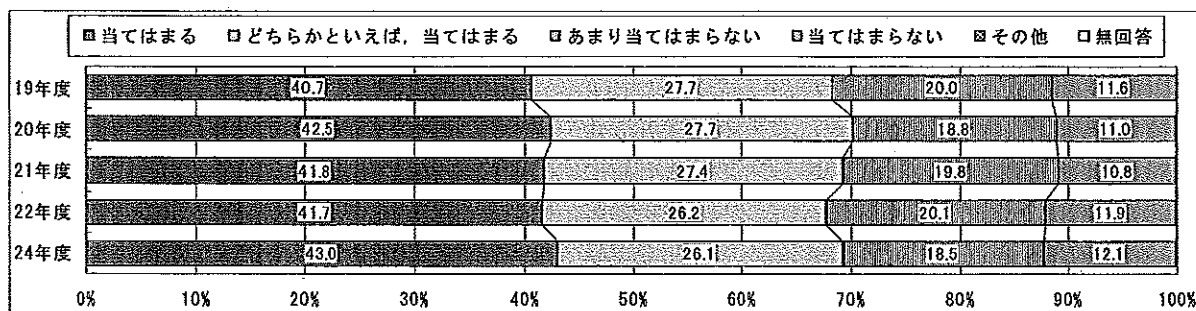
◇人の気持ちが分かる人間になりたいと思う児童の割合に増加傾向がうかがえ、全ての調査年度で全国平均より高い状況にある。

〔問〕 自分にはよいところがあると思いますか。



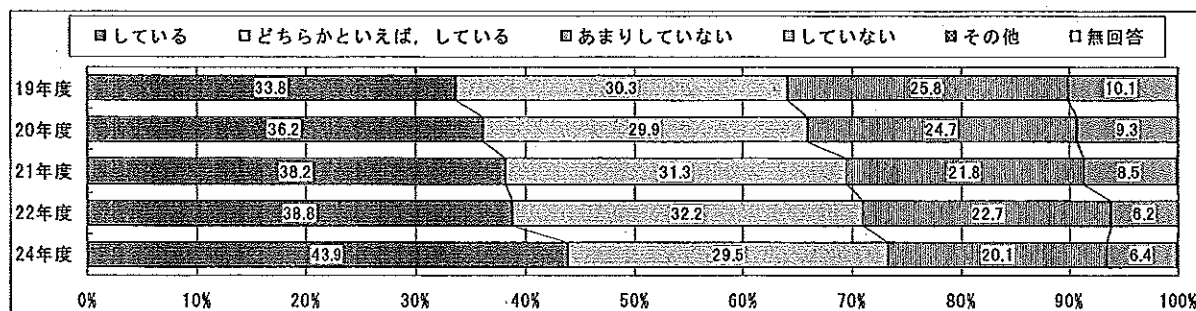
◆自分にはよいところがあると思う児童の割合に増加傾向がうかがえるが、全国平均より若干低い状況にある。

〔問〕 読書は好きですか。



◆読書が好きな児童の割合に大きな変化はみられず、全国平均より若干低い状況にある。

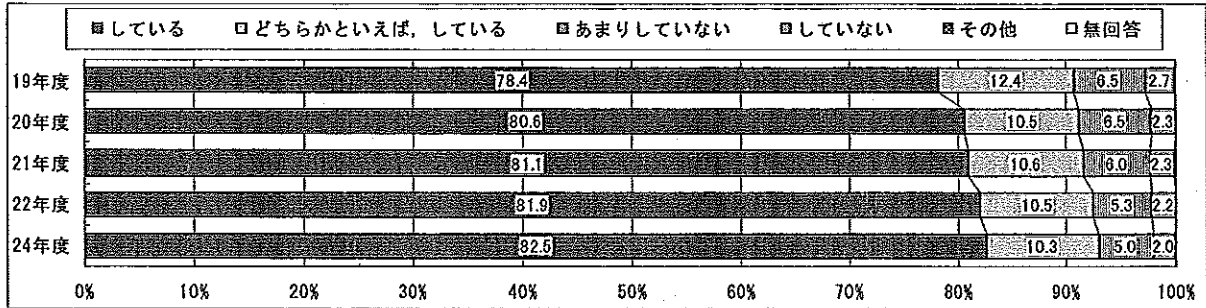
〔問〕 家の人に学校での出来事について話をしていますか。



◆家の人に学校での出来事について話をしている児童の割合に増加傾向がうかがえるが、全国平均より若干低い状況にある。

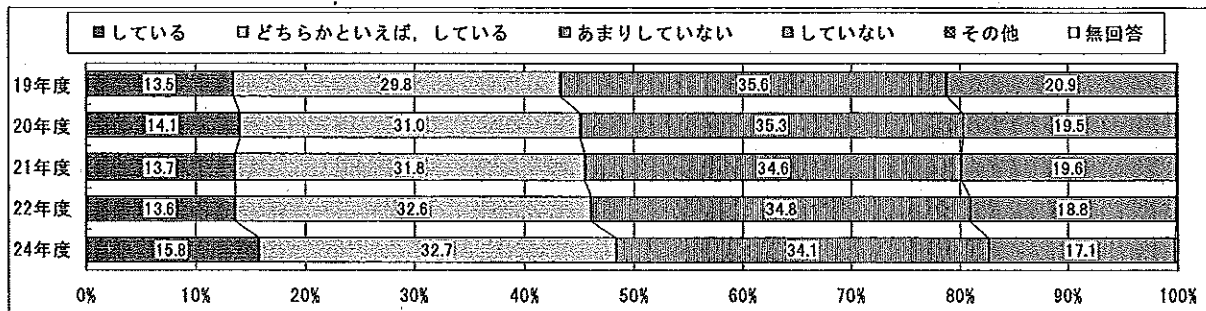
【中学校3年生対象】

〔問〕 朝食を毎日食べていますか。



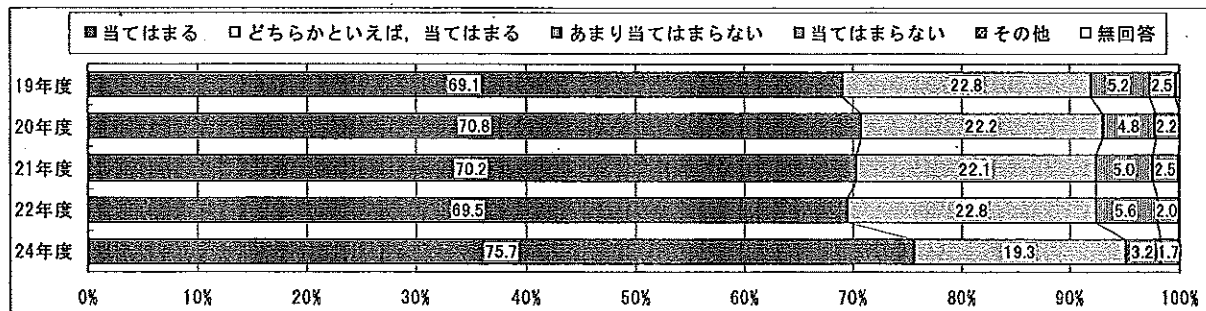
◆朝食を毎日食べている生徒の割合に増加傾向がうかがえるが、全国平均より若干低い状況にある。

〔問〕 家で学校の復習をしていますか。



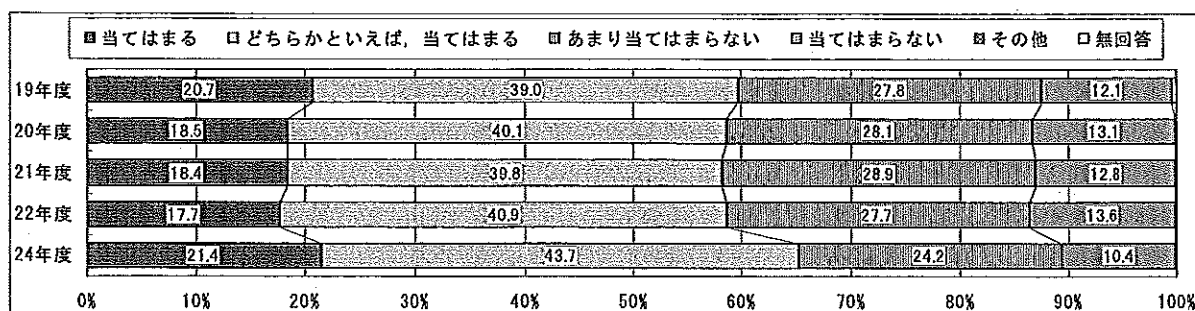
◇家で学校の復習をしている生徒の割合に増加傾向がうかがえ、全ての調査年度で全国平均より高い状況にある。

〔問〕 人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか。



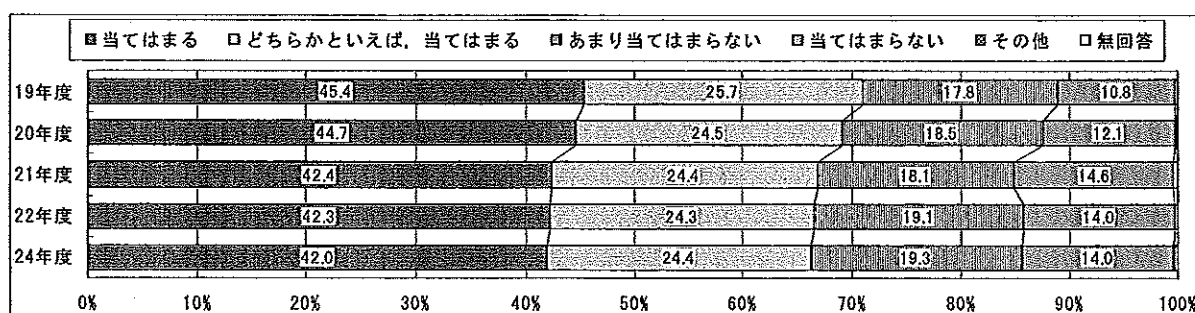
◇人の気持ちが分かる人間になりたいと思う生徒の割合に、平成24年度は増加傾向がうかがえ、全ての調査年度で全国平均より高い状況にある。

〔問〕自分にはよいところがあると思いますか。



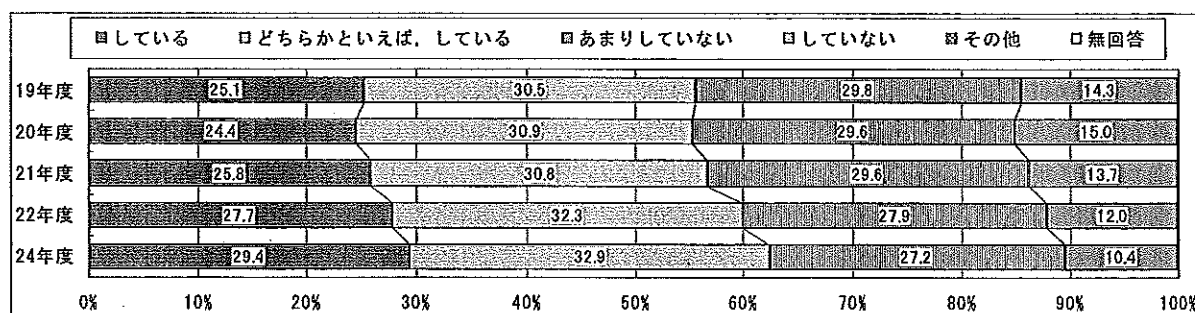
◆自分にはよいところがあると思う生徒の割合に、平成24年度は増加傾向がうかがえるが、平成21年度以降は全国平均より若干低い状況にある。

〔問〕読書は好きですか。



◆読書が好きな生徒の割合に減少傾向がうかがえ、全国平均より若干低い状況にある。

〔問〕家の人に学校での出来事について話をしていますか。



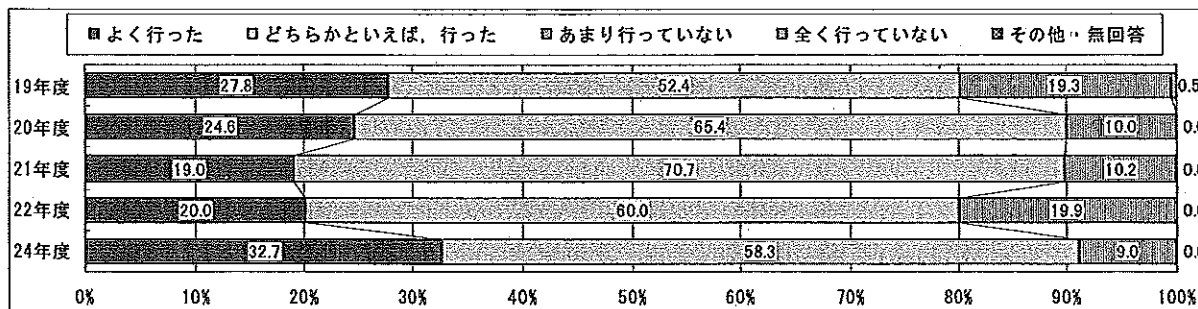
◆家の人に学校での出来事について話をしている生徒の割合に増加傾向がうかがえるが、全国平均より若干低い状況にある。

(4) 学校質問紙調査における教育活動全般についての取組状況（抜粋）

※質問項目によって、調査開始年度が異なる。

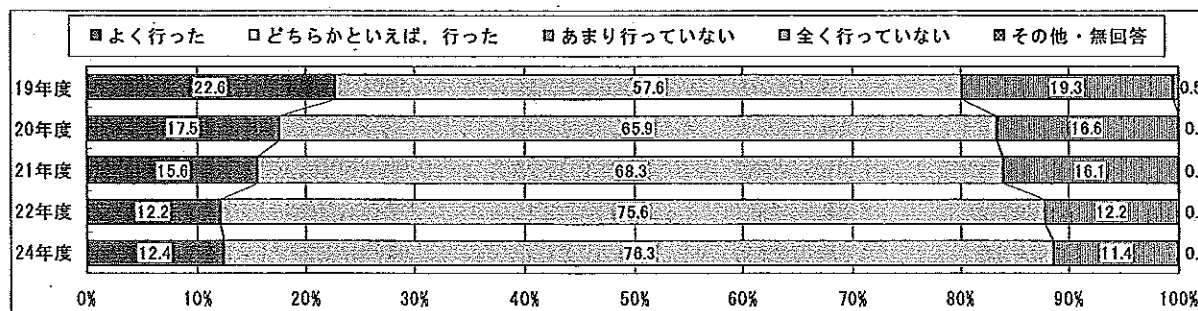
【小学校】

〔問〕国語の指導として、書く習慣を付ける授業を行いましたか。



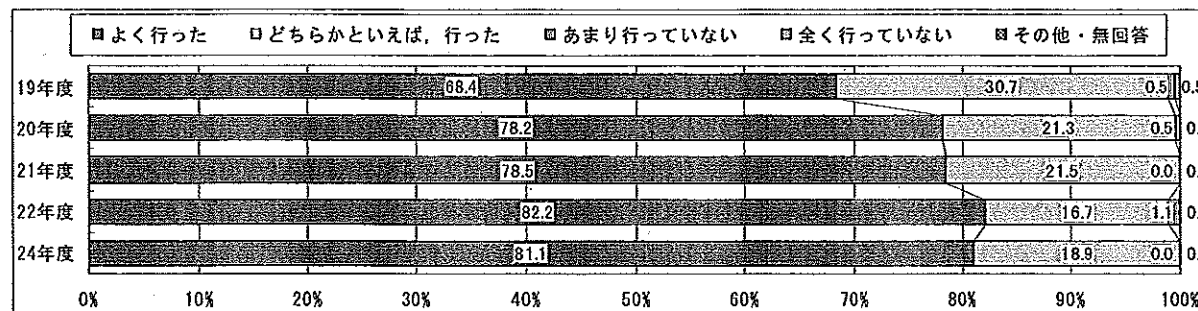
◇国語の指導として書く習慣を付ける授業を実施した割合に、平成24年度は増加傾向がうかがえ、全国平均より高い状況となった。

〔問〕国語の指導として、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか。



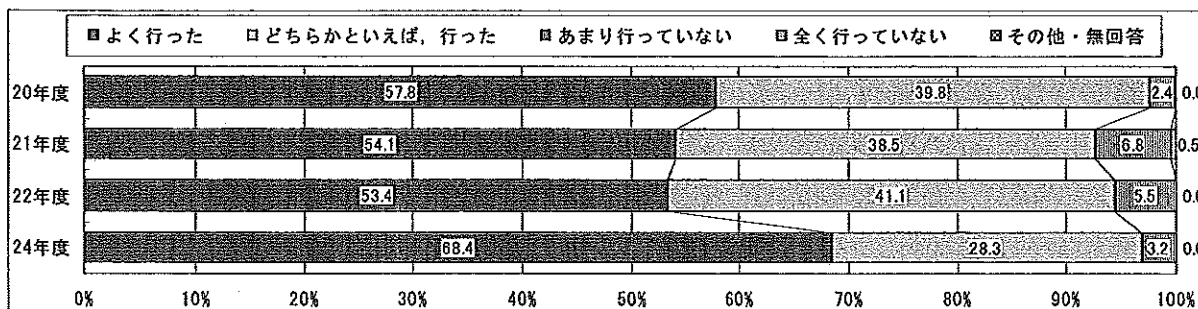
◆国語の指導として目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業をよく行った割合に減少傾向がうかがえ、全国平均より低い状況にある。

〔問〕国語の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか。



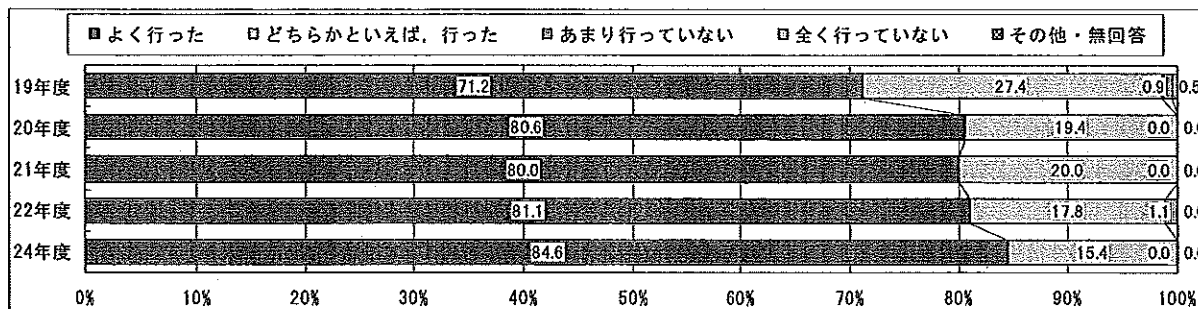
◇国語の指導として家庭学習の課題(宿題)を与えた割合に増加傾向がうかがえ、全ての調査年度で全国平均より高い状況にある。

〔問〕国語の指導として、児童が行った家庭学習の課題について、評価・指導を行いましたか。



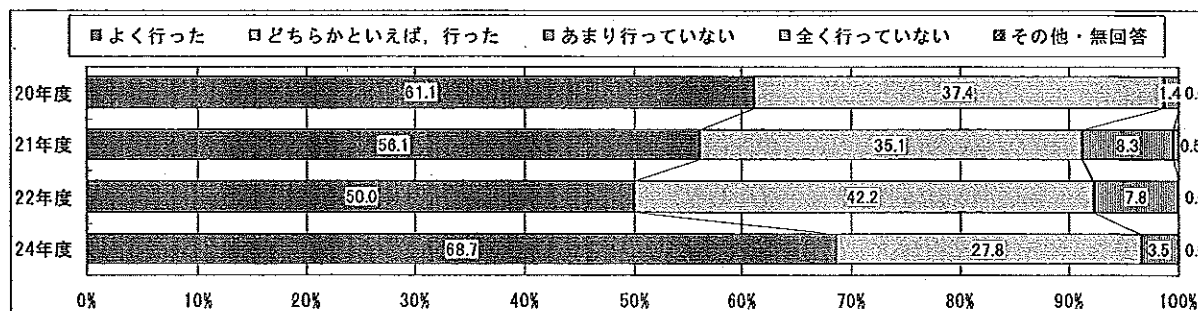
◇国語の指導として児童が行った家庭学習の課題について評価・指導を行った割合に、平成24年度は増加傾向がうかがえ、全国平均より高い状況となった。

〔問〕算数の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか。



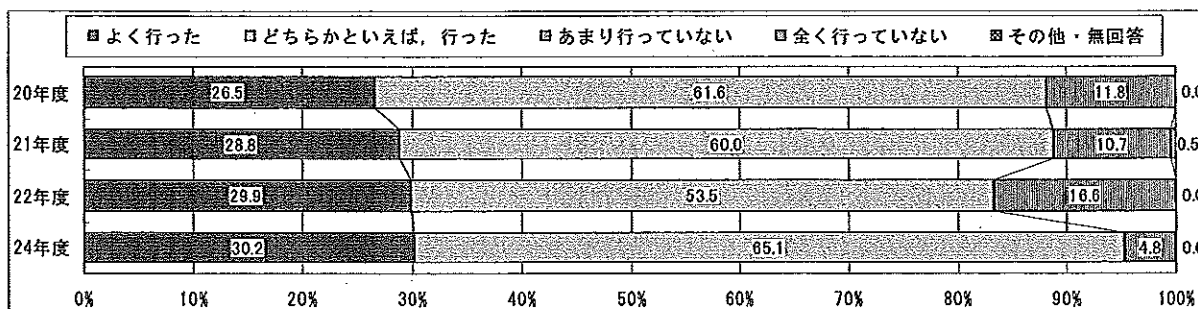
◇算数の指導として家庭学習の課題(宿題)を与えた割合に増加傾向がうかがえ、全ての調査年度で全国平均より高い状況にある。

〔問〕算数の指導として、児童が行った家庭学習の課題について、評価・指導を行いましたか。



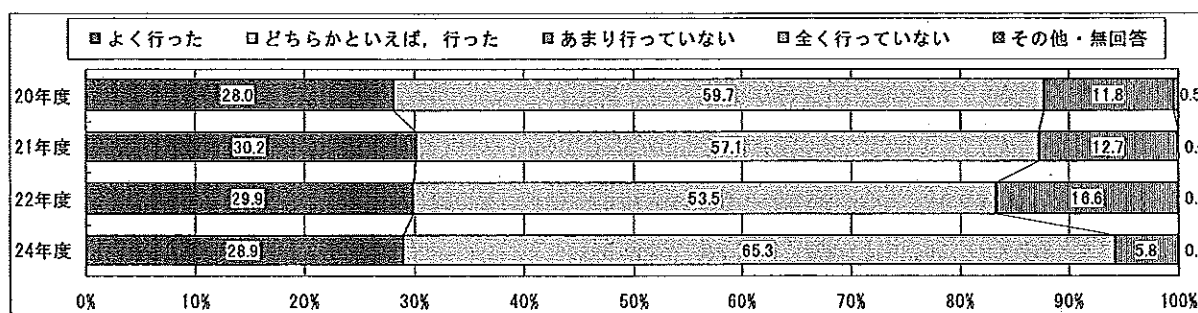
◇算数の指導として児童が行った家庭学習の課題について評価・指導を行った割合に、平成24年度は増加傾向がうかがえ、平成22年度以外は全国平均より高い状況にある。

〔問〕国語の指導として、保護者に対して児童の家庭学習を促すよう働きかけを行いましたか。



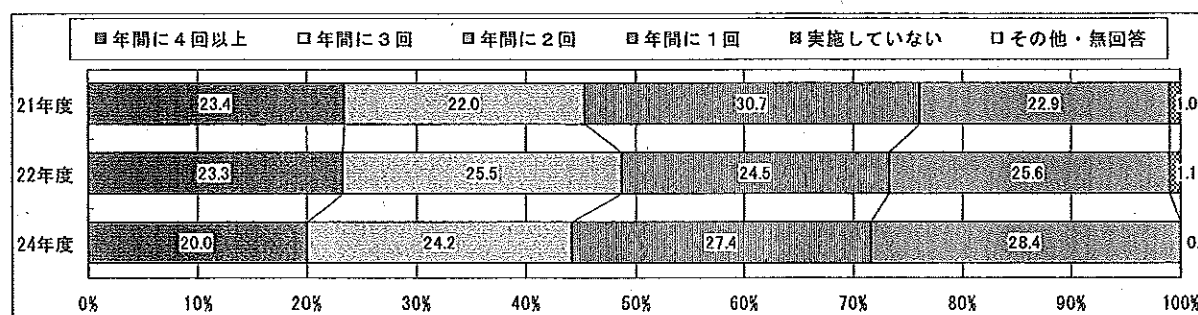
◆国語の指導として保護者に対して児童の家庭学習を促すよう働きかけを行った割合に増加傾向がうかがえるが、全国平均より低い状況にある。

〔問〕算数の指導として、保護者に対して児童の家庭学習を促すよう働きかけを行いましたか。



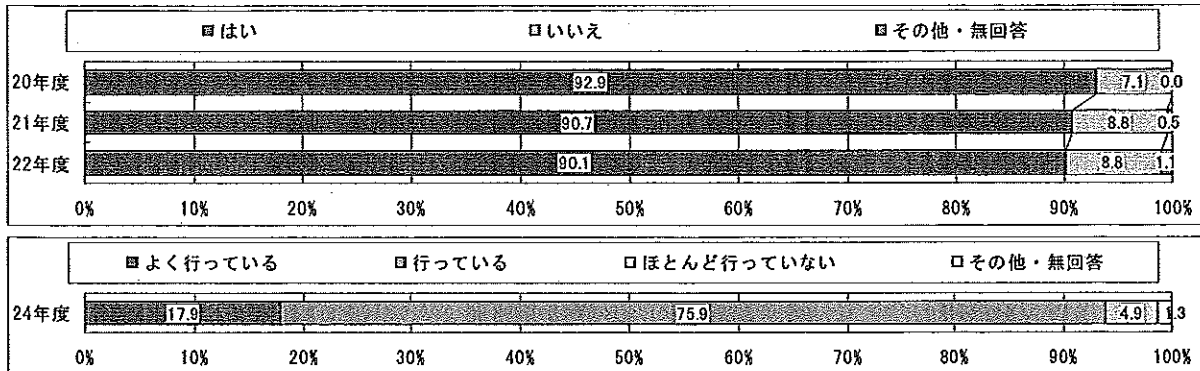
◆算数の指導として保護者に対して児童の家庭学習を促すよう働きかけを行った割合に若干の増加傾向がうかがえるが、全国平均より低い状況にある。

〔問〕保護者からの意見や要望を聞くために、学校として懇談会の開催やアンケート調査を前年度にどれくらい実施しましたか。



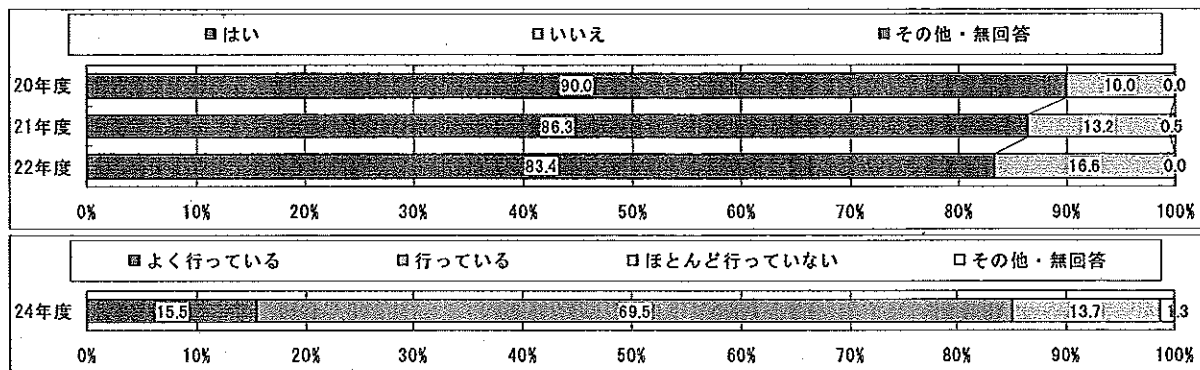
◆保護者からの意見や要望を聞くための学校としての懇談会の開催やアンケート調査の実施の程度に若干の減少傾向がうかがえ、全国平均より低い状況にある。

〔問〕前年度の全国学力・学習状況調査の結果を分析し、具体的な教育指導の改善に活用しましたか。(※平成24年度調査は、回答選択項目が変更)



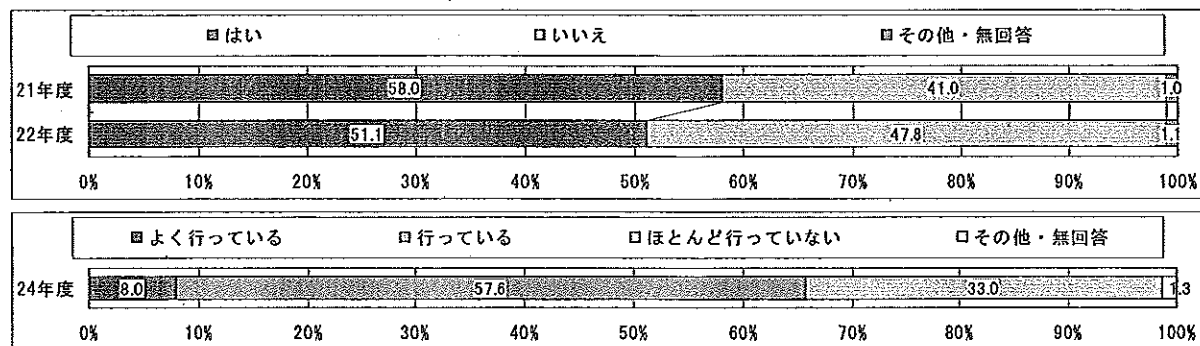
◆前年度の全国学力・学習状況調査の結果を分析し、具体的な教育指導の改善に活用した学校の割合に、平成24年度には増加傾向がうかがえるが、「よく行っている」の割合が全国平均より若干低い状況にある。

〔問〕前年度の全国学力・学習状況調査の結果を、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか。(※平成24年度調査は、回答選択項目が変更)



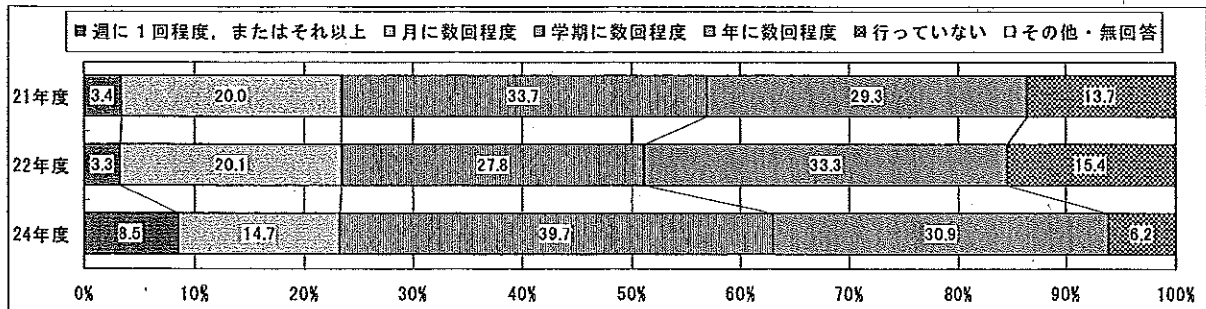
◆前年度の全国学力・学習状況調査の結果を、学校全体で教育活動を改善するために活用した学校の割合に若干の減少傾向がうかがえ、平成24年度には、「よく行っている」の割合が全国平均より若干低い状況にある。

〔問〕前年度の全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか。(※平成24年度調査は、回答選択項目が変更)



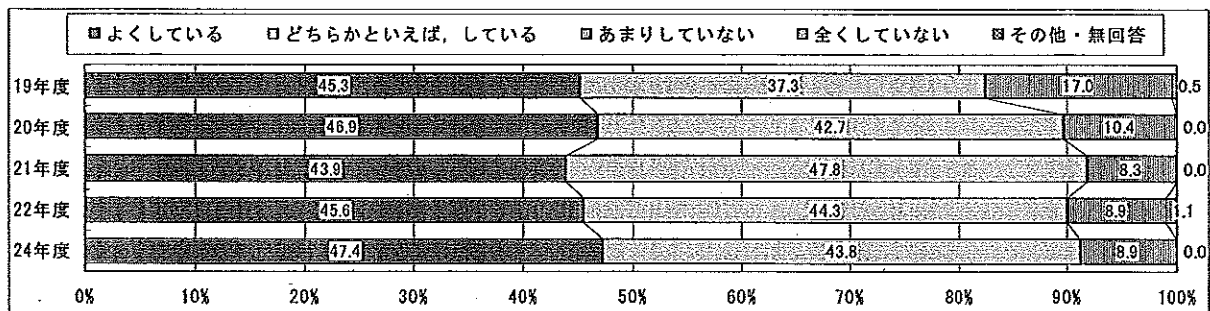
◆前年度の全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行った学校の割合に、平成24年度には増加傾向がうかがえるが、「よく行っている」の割合(8%)が全国平均(13%)より低い状況にある。

〔問〕 学校図書館を活用した授業を計画的に行いましたか。



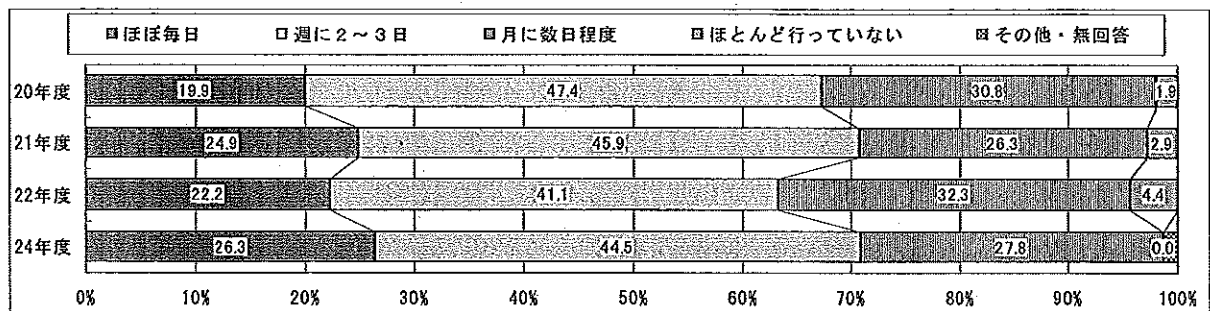
◆学校図書館を活用した授業の計画的な実施に、平成24年度に増加傾向がうかがえるが、全国平均より低い状況にある。

〔問〕 模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っていますか。



◆模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っている割合に増加傾向がうかがえるが、全国平均より低い状況にある。

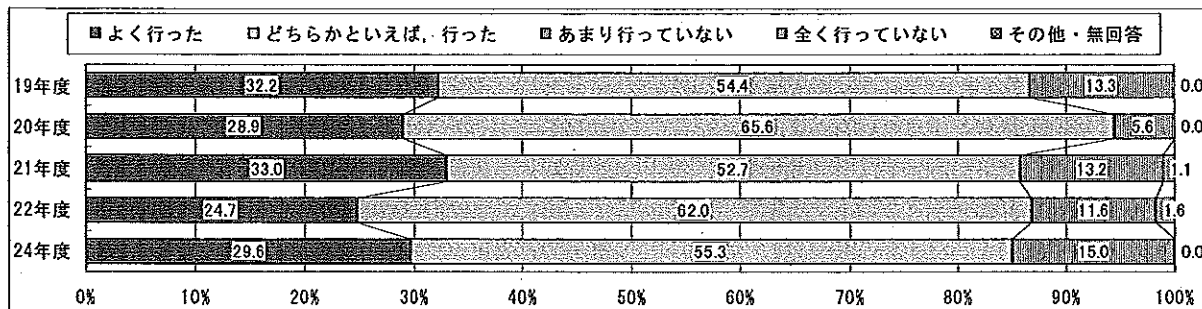
〔問〕 校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか。



◆校長が校内の授業を見て回る程度に若干の増加傾向がうかがえるが、全国平均より低い状況にある。

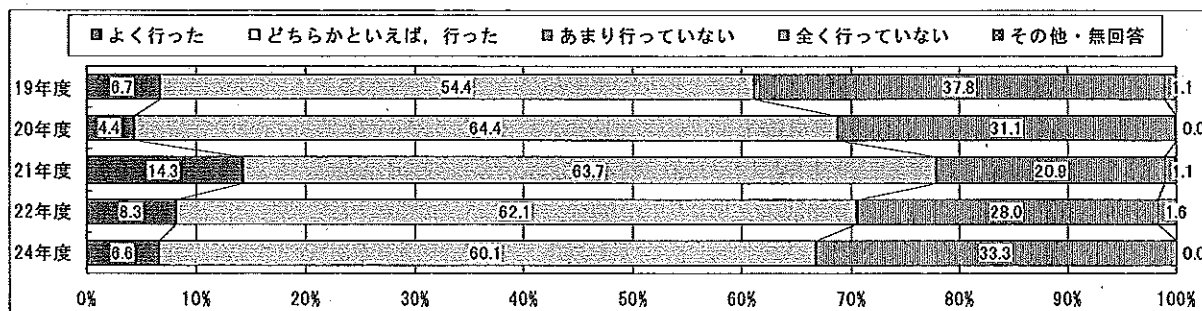
【中学校】

〔問〕国語の指導として、書く習慣を付ける授業を行いましたか。



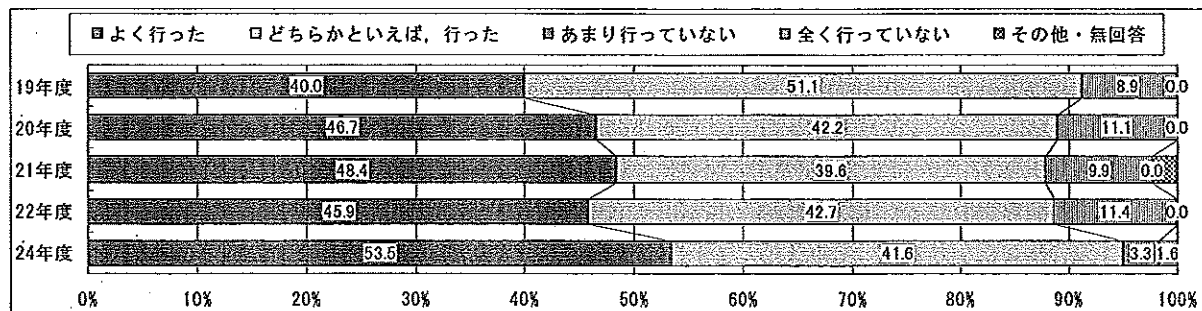
◆国語の指導として書く習慣を付ける授業を実施した割合に大きな変化はみられず、全国平均より若干低い状況にある。

〔問〕国語の指導として、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか。



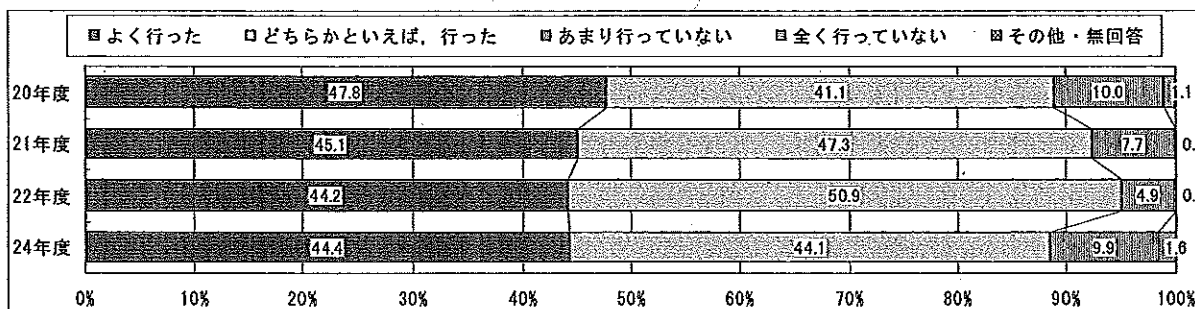
◆国語の指導として目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行った割合に平成22年度から減少傾向がうかがえ、全国平均より低い状況にある。

〔問〕国語の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか。



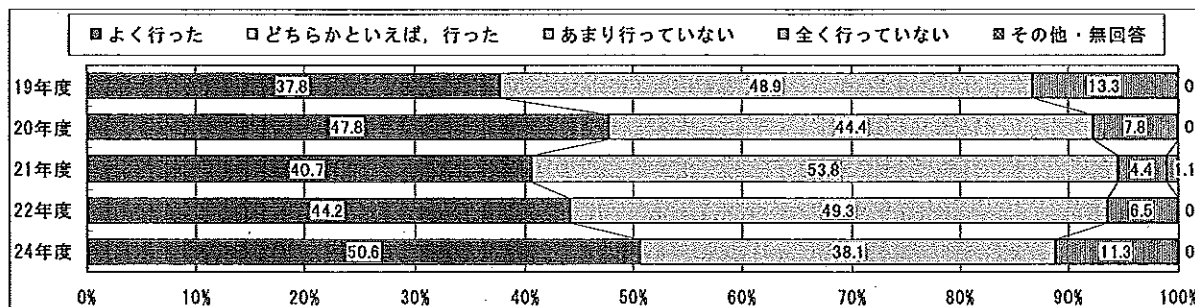
◇国語の指導として家庭学習の課題(宿題)を与えた割合に増加傾向がうかがえ、全ての調査年度で全国平均より高い状況にある。

〔問〕国語の指導として、生徒が行った家庭学習の課題について、評価・指導を行いましたか。



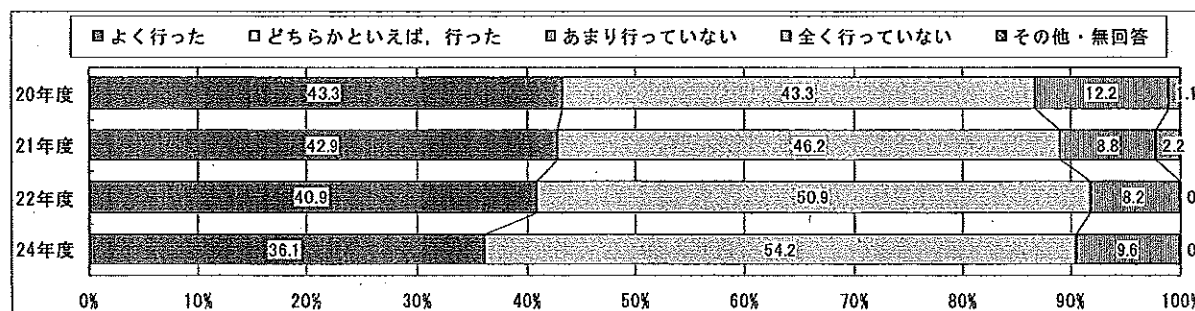
◆国語の指導として生徒が行った家庭学習の課題について評価・指導を行った割合に大きな変化はみられず、全国平均より低い状況にある。

〔問〕数学の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか。



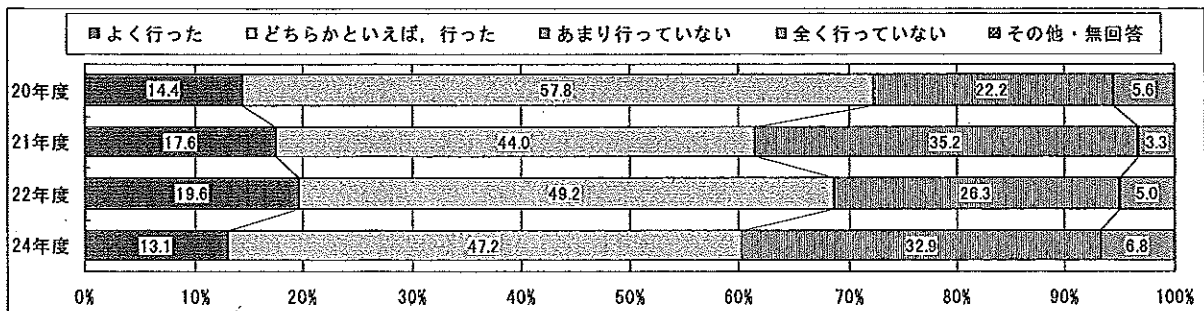
◇数学の指導として家庭学習の課題(宿題)をよく与えた割合に増加傾向がうかがえ、全ての調査年度で全国平均より高い状況にある。

〔問〕数学の指導として、生徒が行った家庭学習の課題について、評価・指導を行いましたか。



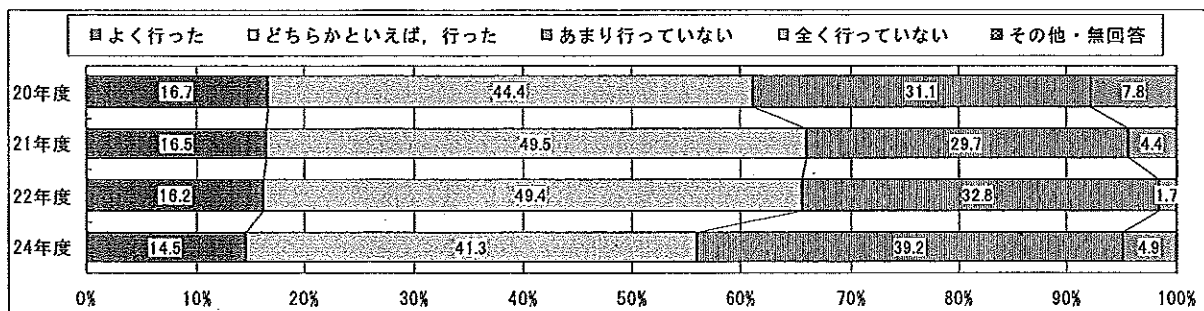
◆数学の指導として生徒が行った家庭学習の課題について、評価・指導をよく行った割合に減少傾向がうかがえ、全国平均より低い状況にある。

〔問〕国語の指導として、保護者に対して生徒の家庭学習を促すよう働きかけを行いましたか。



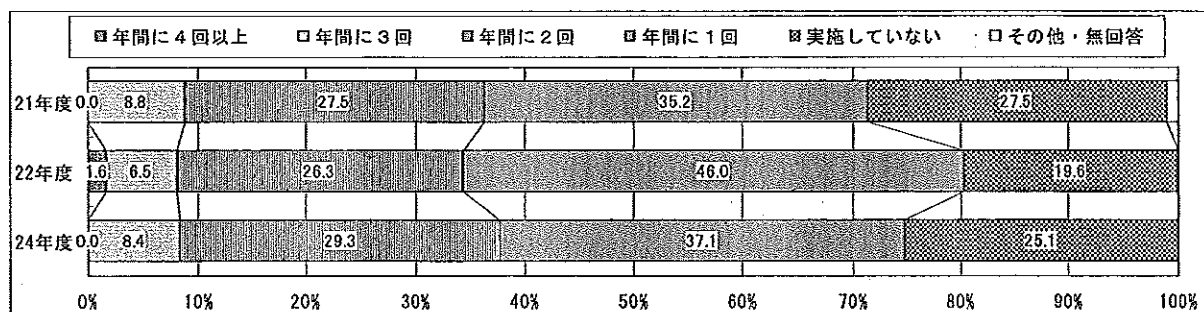
◆国語の指導として保護者に対して生徒の家庭学習を促すよう働きかけを行った割合に若干の減少傾向がうかがえ、全国平均より低い状況にある。

〔問〕数学の指導として、保護者に対して生徒の家庭学習を促すよう働きかけを行いましたか。



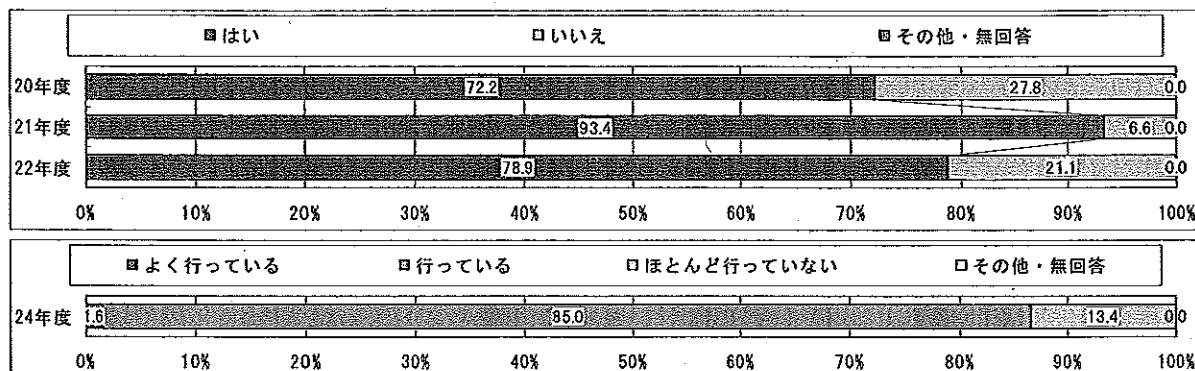
◆数学の指導として保護者に対して生徒の家庭学習を促すよう働きかけを行った割合に、平成24年度に若干の減少傾向がうかがえ、全国平均より低い状況にある。

〔問〕保護者からの意見や要望を聞くために、学校として懇談会の開催やアンケート調査を前年度にどれくらい実施しましたか。



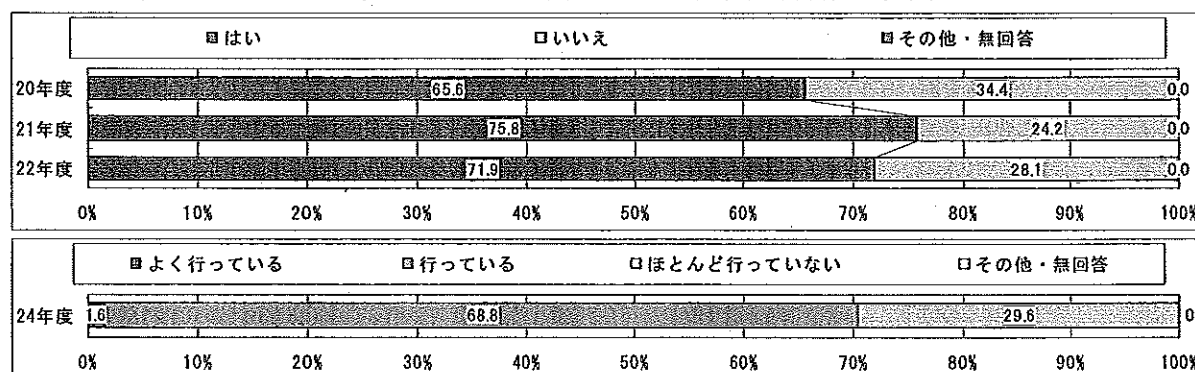
◆保護者からの意見や要望を聞くための学校としての懇談会の開催やアンケート調査の実施の程度に大きな変化はみられず、全国平均より低い状況にある。

〔問〕前年度の全国学力・学習状況調査の結果を分析し、具体的な教育指導の改善に活用しましたか。(※平成24年度調査は、回答選択項目が変更)



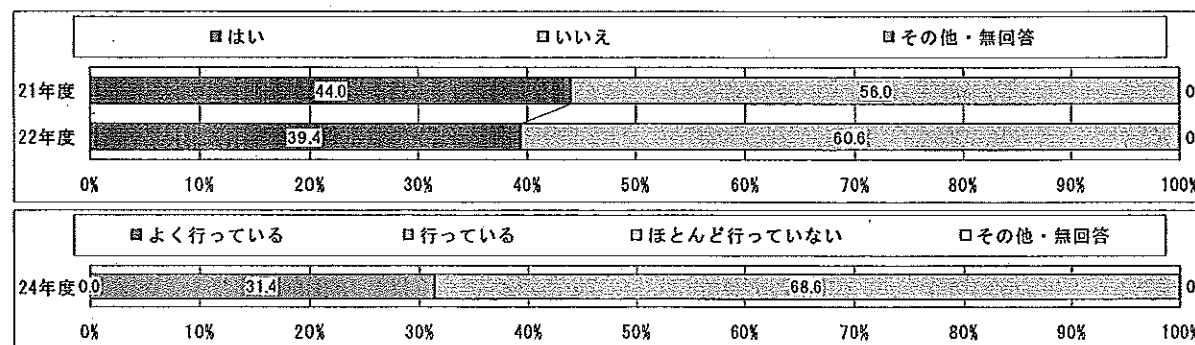
◆前年度の全国学力・学習状況調査の結果を分析し、具体的な教育指導の改善に活用した学校の割合に増加傾向がうかがえるが、平成24年度には、「よく行っている」の割合(1.6%)が全国平均(13.3%)より相当低い状況にある。

〔問〕前年度の全国学力・学習状況調査の結果を、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか。(※平成24年度調査は、回答選択項目が変更)



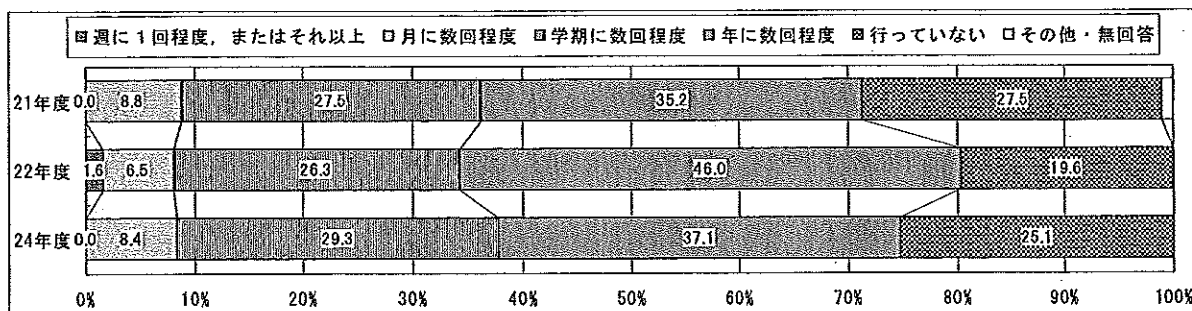
◆前年度の全国学力・学習状況調査の結果を、学校全体で教育活動を改善するために活用した学校の割合に、平成22年度から減少傾向がうかがえ、平成24年度には、「よく行っている」の割合(1.6%)が全国平均(12.4%)より相当低い状況にある。

〔問〕前年度の全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか。(※平成24年度調査は、回答選択項目が変更)



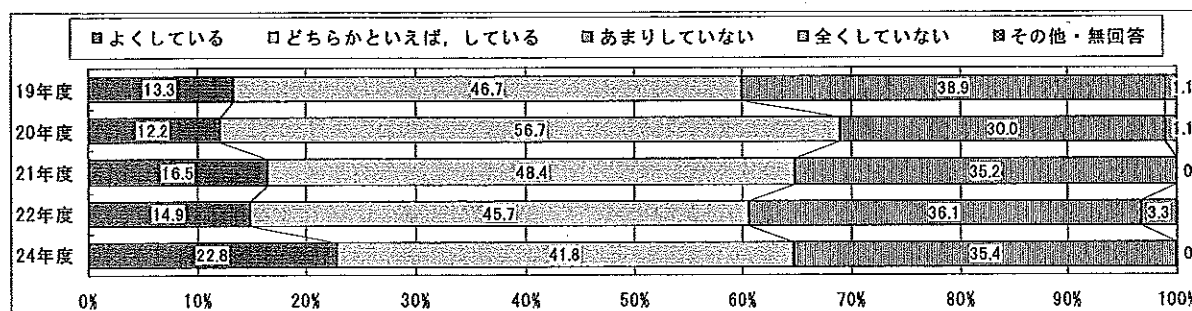
◆前年度の全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行った学校の割合に減少傾向がうかがえ、平成24年度には、「よく行っている」の割合は0%で全国平均(10.9%)より相当低い状況にある。

〔問〕 学校図書館を活用した授業を計画的に行いましたか。



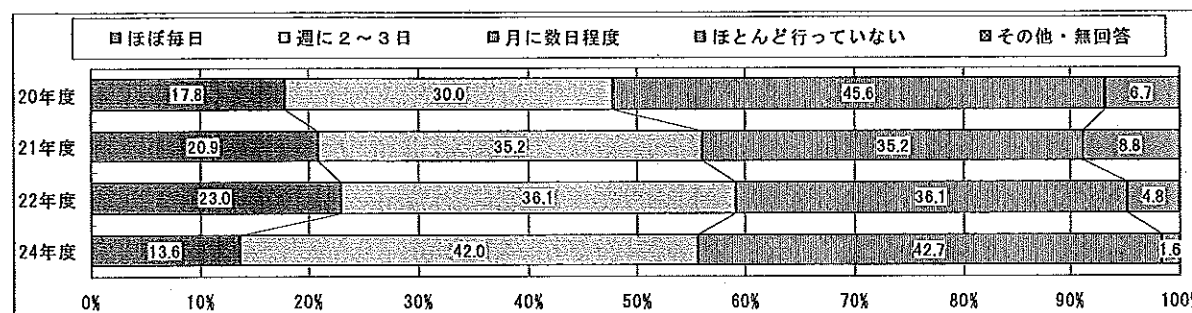
◆学校図書館を活用した授業の計画的な実施に大きな変化はみられず、全国平均より低い状況にある。

〔問〕 模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っていますか。



◆模擬授業や事例研究など、実践的な研修をよく行っている割合に増加傾向がうかがえるが、全国平均より低い状況にある。

〔問〕 校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか。



◆校長が校内の授業を見て回る程度に、平成24年度に減少傾向がみられ、全国平均より低い状況にある。

2 徳島県版：「学力・学習状況」改善サイクルの確立に向けた支援

(1) 校内「学力向上検討委員会」の設置・会議の開催【県教委の支援2, 7】

◇全ての公立幼・小・中・高・特別支援学校が「学力向上検討委員会」を園・校内に設置し、企画・運営の中心となる「学力向上推進員」を1名指名して学力向上検討委員会を開催している。

◇毎年11月実施の「学力向上のための取組に関する調査」により各学校の取組状況等を把握し、調査結果を学力向上推進員研修会において活用することにより、学力向上検討委員会の企画・運営面の支援が定着している。

◆学校による取組のばらつきが十分に改善されていない状況がみられる。

(2) 学校版：「学力・学習状況」改善プランの作成・活用【県教委の支援2, 7】

◇改善プランの意義・内容について、各園・校への周知・徹底が図られ、全ての公立幼・小・中・高・特別支援学校において作成されるようになった。

◇各学校それぞれに学力・学習状況調査やアンケートの結果を踏まえ、学力・学習状況の具体的目標、数値目標、具体的方策、改善策等の設定・評価が行われている。

◆改善プランが全教職員に十分周知・共有されていない学校がみられる。

◆基礎・基本（漢字・計算等）の定着を指導の重点とし、習得した知識・技能を活用する力の育成に向けた取組が十分に計画されていない学校がみられる。

(3) 学力向上推進員研修会【県教委の支援3, 4】

◇学力向上推進員に対し、「徳島県学校改善支援プラン」推進事業の意義と推進員の役割等について周知し自覚を促すことができ、研修会で紹介した実践事例や研修内容が、学校改善プランの具体的目標や具体的方策に反映され、取組の内容が充実してきている。

◆推進員の意識や学校全体での取組に温度差がみられ、推進員の取組を支える管理職のリーダーシップが一層望まれる。

(4) 徳島県版「学力・学習状況調査」の実施・結果の活用【県教委の支援1, 4】

◇事前の課題解決に向けた具体的取組の提示、調査の実施、全県的結果の集計・分析結果の提供によりPDCAサイクルの確立が図られている。

◇各学校において、県が作成・提供した集計・分析ソフトを活用して課題把握等が行われている。

◆各学校で採点及び児童生徒個々の設問別解答状況等のデータ入力作業を行うため、作業時間や労力の面で負担となっている。

◆今後、PDCAサイクルの更なる充実に向けて、調査の内容、実施時期等を検討する必要がある。

(5) フォーラム等の開催【県教委の支援5】

◇研究指定校等の取組やその成果，また本県の学力向上推進事業について，学校種を問わず全県的に周知する機会となっている。

◆動員による参加者が多い状況であるため，自主的に発表を希望する園・学校や保護者及び県民の参加を促す方策を検討する必要がある。

(6) 児童生徒にかかわる時間の確保【県教委の支援6】

◇県教育委員会事務局内に「会議等精選ワーキングチーム」を設置し，学校・市町村教育委員会を対象とした調査・照会事項や主催会議等を精選することを通して教職員の負担軽減を図り，児童生徒にかかわる時間が確保できるよう配慮を行っている。

◆文部科学省等からの新たな調査依頼に対応せざるを得ない状況がある。

3 家庭・地域との連携

(1) 「家庭学習の手引」の作成・活用【県教委の支援5】

◇手引の作成に当たっては，学力向上推進員研修会等での研修やモデルとなる学校の手引を総合教育センターホームページに掲載するなどの支援を行い，平成21年度に全ての公立小・中学校で作成された。

◇手引に関して家庭に周知し，家庭との連携を図るために家庭学習課題を工夫改善している学校が増加している。

◆家庭と連携した有効活用を一層図るため，手引の見直しや工夫改善を促すなどの啓発を継続していく必要がある。

(2) 学校ホームページを活用した学力向上に関する情報発信【県教委の支援5】

◇推進当初は，市町村や各学校の設備等の充実に差異があり進捗状況はまちまちであったが，平成22年度には全ての公立小・中学校で学校ホームページが立ち上がり，情報発信が行われている。

◇年間・月間行事計画や特色ある教育活動，学力向上に関する取組を継続的に掲載している学校が増えている。

◆研究指定に関する取組の内容や「学力・学習状況」改善プランの掲載にとどまらず，各学校が改善プランに沿って取り組んでいる学力向上に関する内容について，積極的な情報発信を促す必要がある。

Ⅲ 課題解決に向けた基本的な考え方

1 自ら考え、判断し、表現できる子ども

～みんなでする つづけてする とことんする～の継承

みんなでする

全国学力・学習状況調査等において課題となった学力の向上は、ともすれば小学校では調査対象学年だけの問題として、中学校では調査対象教科である国語科・数学科だけの問題として捉えがちであるが、決してそうではなく、全ての学年で取り組むことはもちろん、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間など、学校の教育活動全体を通して取り組まなければならないことである。

各学校においては、このことを教職員「みんな」で共通理解し、組織的に取り組んでいく。また、課題となった生活習慣等の改善についても、学校・家庭・地域・教育行政「みんな」が連携して進める。

そして、こうした環境の中、児童生徒同士も、「みんな」で互いに認め合い、高め合い、ともに伸びていく。

つづけてする

本県児童生徒にみられる課題である知識・技能等を「活用」する力や生活習慣等は、一朝一夕に身に付くものではない。就学前における教育も含め、小学校6年間、中学校3年間を見通した系統的な取組が必要であり、校種間における連携を強め、「つづけて」取り組む。

また、学校で学んだことを家庭・地域でも「つづけて」学習し、それを学校での学習に再び生かしていくなど、学校と家庭・地域がリンクした学習の在り方についても工夫する。

「継続は力なり」と言われるが、学校の教育活動の改善についても、あきらめずに「つづけて」取り組む。

とことんする

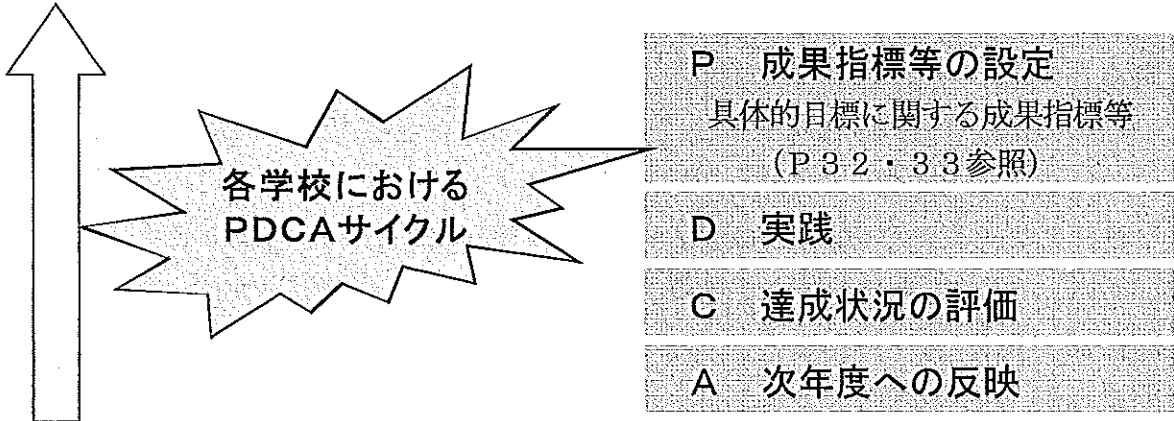
各学校においては、例えば、放課後等を利用した補充的な学習サポートを実施するなど、児童生徒一人一人の課題に応じた指導を根気強く行っている。

児童生徒の心身の発達やそれぞれの児童生徒の特性を配慮した上で、個に応じた熱意ある指導を今後も「とことん」行うとともに、基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成との両方を、ともに図るという視点を持ち進めていく。

また、学校の教育活動の改善についても、PDCAサイクルにより、常に検証・改善を図りながら、かけがえのない存在である児童生徒一人一人のために愛情をもって「とことん」取り組む。

2 学力向上方策の基本的な考え方

自ら考え、判断し、表現できる子ども
「阿波っ子 学びのススメ10か条」の実現 (P24 参照)



4つの方策

- 1 組織マネジメントの確立……………(校長のマネジメント力, 教職員の協働等)
- 2 教育の質の向上……………(各教科等の指導法, 教員の指導力, 校種間連携等)
- 3 家庭・地域との連携……………(成果指標を踏まえた各学校ごとの目標・評価等の
保護者等との共有, 学校行事等への参加・協力等)
- 4 外部人材の活用・社会とのリンク…(大学等との連携による学習指導の実施,
キャリア教育の充実等)

※教育に関する県民意識調査から抜粋
(平成24年度実施)

- 将来を担う子どもたちが育っていく上で重視されるべきこと
 - ・心身ともに健康である
 - ・物事に適切に対応できる判断力や実践力を身に付ける
 - ・人と適切にコミュニケーションを図ることができる
- 小・中学校教育において力を入れるべきこと
 - ・基礎的な学力が身に付くようにする
 - ・自ら考え主体的に判断する力を養う
 - ・自分や身の周りの人の人権を大切に
する心や態度を育てる
- 望ましい教員の資質
 - ・よく分かる教え方をする
 - ・子どもの適性を正しく把握する
 - ・公平に子どもに接する

◇保護者が求めるものは、子どもたちにどうい
う力が付いたかという明確な「成果」である
ので、不断の評価・検証の前提となる指標が
必要である。

◇指標は本県の公立学校教員全てが共有すべき
ものであり、当該指標達成のために、地域と
ともにある学校づくりが不可欠である。

◇指標の達成状況については、全国学力・学習
状況調査の結果等のデータに基づく客観的な
評価・検証を行うことが必要である。

◇「成果」については、教育を受けた本人に帰属す
る私的成果と、広く社会全体に還元される公的
成果の2つの側面がある。私的成果はもとより、
児童生徒に学力を付けさせるということが、ど
のような形で実社会と結び付いているのかという
視点をもった教育実践が重要である。

IV 「阿波っ子 学びのススメ10か条」

自ら考え、判断し、表現できる子どもの育成

本県教育振興計画の基本理念に込められた「ふるさと徳島への誇りをもちつつ、我が国を愛し他国を尊重する国際的な視野をもち、多様な価値観をもった人たちが互いを認め合いながら豊かに生きる社会の創造に貢献する人を育てる」という思いを実現するため、徳島県にかかわりのある全ての人が一体となって、これからの時代を担っていく徳島の子どもたちを育むことが求められている。

これに応えるためには、自ら考え、判断し、表現できる子どもを育成することが重要である。そこで、県内全ての教育委員会及び公立学校、教職員、児童生徒や保護者、地域住民が共有し、「みんなで、つづけて、とことん」取り組むことができるよう、「阿波っ子 学びのススメ10か条」を作成する。

育てたい阿波っ子の姿を、誰もがイメージできるよう分かりやすい表現を用いるとともに、学校・家庭における学習への取組の姿勢など、児童生徒の日常における様々な場面を幅広く想定して作成している。生活習慣や学習習慣が培われる就学前教育・義務教育の時期に、これらのことを改めて意識するのとならないのでは、その後の成長に大きな違いが生じると考える。

今後、各学校においては、本10か条の実現・達成に向け、各学校独自のより具体的な成果指標等を設定し、保護者や地域住民と共有し、地域とともにある学校づくりを進めていく。

自ら考え、判断し、表現できる子ども

みんなを
応援しているよ!



「阿波っ子 学びのススメ10か条」

- 1 「なぜ」、「どうして」から生まれ育む 課題解決の力
疑問をもち、解決するために自ら取り組むことが学びのスタートです。
- 2 書くことで 自分の考え 確かなものに
文字にすることで、自分の考えが整理され、明らかなものになります。
- 3 考えを 広げ深める 話し合い
みんなの意見を聞き、自分の考えを伝えることで、学び合いが生まれます。
- 4 準備を整え きまりを守って 授業に集中
学習のきまりを守ると、落ち着いてしっかり学べる場になります。
- 5 今日の学びを 家庭で復習
復習をすると、授業の内容を整理でき、明日の学びにつなげることができます。
- 6 目標をもち 自分を信じて 根気よく
目標に向かい、継続することでやりとげることができます。
- 7 読書で育む 言葉と感性
読書で出会う「わくわく」が、言葉を豊かにし、心を耕します。
- 8 互いにあいさつ 笑顔あふれる学校に
あいさつは、ともに学ぶ仲間と心を通わせる第一歩です。
- 9 早寝 早起き 朝ごはん 規則正しい生活リズム
規則正しい生活をするので、今日のやる気が生まれます。
- 10 家庭で話そう 友だち・学校・ふるさと徳島
何気ない話題でも、家族との対話から伝え合う力が高まります。

V 「阿波っ子 学びのススメ10か条」実現のための4つの方策

1 組織マネジメントの確立に向けた取組の推進

学校における組織マネジメントは、「学校を取り巻く様々な環境を的確に把握し、自校の有り様をその変化する環境に適応させながら、学校教育目標を達成していく過程（活動）」を意味している。

各学校においては、学校や地域の実情に応じて主体的に工夫し、特色ある教育活動を展開することが求められており、校長のリーダーシップのもと、全教職員が一致協力し、組織的、機動的な学校運営を進めるために、教職員一人一人がそれぞれの力を十分に発揮し、組織的、一体的に協働して教育課題に取り組むことが大切である。

(1) 校長のマネジメント力による組織の活性化

① 学校経営ビジョンの共有

教職員は、校長の学校経営ビジョンのみではなく、ビジョンの背景にある状況を理解・納得しているからこそ動くのである。そのため、校長はビジョンの背景等を全教職員に明示し、共有した上で、年度末には評価・検証する必要がある。

② マネジメントの仕組みづくり

ビジョンの実現に向け、学力向上推進員の指名・学力向上検討委員会の設置等に伴う校務分掌の編成等の組織構造や、情報の共有化、会議の在り方等の運営の仕組みなど、マネジメントのための仕組みづくりを進める。

③ PDCAサイクルの充実

この仕組みをベースとして学校・地域の実態や児童生徒の状況等を把握し、「学力向上実行プラン」を作成する。そして、中間期には具体的な方策の取組状況等を見直し、改善することが重要である。

【→P32 PDCAサイクルの更なる充実に向けて】

(2) 教職員の協働による組織力の強化

① 学校組織の特長を生かす

(ア) 教職員同士の水平方向のコミュニケーションを活発にすることにより、新しい課題や変化に適応したアイデアが出やすい状況をつくる。

(イ) 学校には様々な「校務分掌」と、学年ごとの「学年団」や教科ごとの「教科部会」があり、それぞれの教職員は複数の仕事を担当しているため、互いの共通理解や連携・協働を図り、全体としての組織力を高める。

② 教職員の協働

(ア) 明確な学校経営ビジョンのもと、教職員が自分の教育活動と学校全体とのつながりをよく理解することにより、自分の仕事の意味を把握するとともに、動機付けや学校への一体感を喚起して、自分の仕事が単なる作業ではなく、意味ある活動として関連付けることができる。

(イ) 一人一人の教職員が直面する子どもや教育課題の困難さや複雑さは増大する状況である。個々の教職員が分断されることなく、互いに協働することによって、相互作用の活性化を通して、組織力の強化を図る。

2 教育の質の向上

児童生徒に基礎的な知識・技能を徹底して身に付けさせるとともに、それを活用しながら自ら学び自ら考える力などの「確かな学力」を育成するには、教育の質の向上が不可欠である。教育内容・方法の改善，教員の指導力の向上，教育環境の整備等，様々な面からその取組を推進する必要がある。そのためには，定期的・組織的に校内研修を開催し活性化を図るとともに，教員がそれぞれのよさを発揮しつつ，学び高め合う集団として互いに切磋琢磨していくことが重要である。また，他校の効果的な実践事例に関しても情報交換を積極的に行うなど，授業改善に努めることが大切である。

なお，各教科等の授業改善を通して児童生徒の思考力・判断力・表現力等を育むために，体験から感じ取ったことを表現したり，互いの考えを伝え合い自らの考えや集団の考えを発展させたりするなどの言語の力を高める学習を行うことが重要である。

(1) 各教科等における指導に関する重点事項の共有

指導力の向上に向け，全教員が各教科等における指導に関して，現状の課題や目指す児童生徒の姿及び指導すべき重点的な内容等を共通理解する必要がある。そこで，これらについて具体的に示す「各教科等における『平成25年度の重点』」を作成し，各学校における全教員の共通理解を図るとともに，組織的・協働的活動を促進する。

また，校内研修や指導計画の作成，授業研究・研究協議等の際にも活用して，個々の教員の授業改善に向けた積極的な取組の推進を図る。

【→P39 各教科等における「平成25年度の重点」】

(2) 校種間連携の推進

核家族化・少子化の進行や地域コミュニティの弱体化等，児童生徒を取り巻く状況が様々に変化する中，児童生徒に関する課題が多様化・複雑化してきていることも受け，学校においては，複数の異校種間で連携して課題解決に当たることがより一層求められている。

また，小学校から中学校への進学時において不登校等が増加するなどのいわゆる中1ギャップが指摘されている中，児童生徒の教育に関して各校種において完結するのではなく，校種間連携を推進し，円滑な接続を図ることが大切である。教職員が異なる校種に渡って各教科等の目的・内容等を見通し，学習内容の系統性を図ったり，相互授業参観等によって共通理解を深めたりする取組を推進していく必要がある。

(3) 児童生徒にかかわる時間の確保

学校を取り巻く環境の急激な変化にともない，教職員が対応すべき課題の多様化・複雑化が進み，教職員の負担も増大を続けている。すでに各学校においては，教職員の職務の見直し等により学校事務の軽減・効率化などを図っているが，今後さらに検討を重ね，教職員が児童生徒とかかわる時間が確保できるよう努める必要がある。

徳島県教育委員会においても，平成23年度に「会議等精選ワーキングチーム」を設置し，市町村教育委員会や学校を対象とした調査・照会事項や主催会議等の精選について検討を行っており，今後も継続して見直し・改善等に努める計画である。

3 家庭・地域と連携し、一体となった取組の推進

各学校においては、地域に根ざした特色ある教育を行うため、保護者や地域住民の信頼を得ながら、家庭・地域と一体となって学校づくりを進めることが求められる。つまり、子どもを育てる中では、保護者や地域住民それぞれにも責任があり、当事者としてそれぞれの持ち場で積極的にかかわることが重要である。

家庭や地域の教育力の弱体化が課題となっている現在、家庭や地域から十分な協力を得るためには、学校教育目標の共有をはじめとし、それぞれの役割分担や協力関係など「協働」の在り方についても考えていく必要がある。

(1) 「阿波っ子 学びのススメ10か条」の共有

誰もが育てたい阿波っ子の姿をイメージできるよう、分かりやすい表現を用いて「阿波っ子 学びのススメ10か条」を作成した。学校・家庭における学習への取組の姿勢など、子どもたちの日常における様々な場面を幅広く想定したもので、県内全ての教育委員会及び公立学校、教職員、児童生徒や保護者、地域住民に発信・共有して、その実現に向け、「みんなで、つづけて、とことん」取り組む。

生活習慣や学習習慣が培われる就学前教育や義務教育の時期、これらのことを改めて意識するのとししないのでは、大きな違いが生じると考えられるため、あえて明確に示すことによりその意識化・態度化を図る。

各学校においては、独自の成果・取組指標を設定するとともに、学校だけの取組にとどめず家庭や地域も含めた取組として広く協力が得られるように努める。

【→P23 阿波っ子 学びのススメ10か条】

(2) 「学力向上実行プラン」の共有

「徳島県学校改善支援プラン」において、「徳島県版：『学力・学習状況』改善サイクル」の確立に向け、各学校において「学校版：『学力・学習状況』改善プラン」を作成し、PDCAのマネジメントサイクルを継続的に推進してきた。

各学校においては、学校だよりやホームページ等に掲載するなどして、家庭や地域への周知に努めてきたが、まだまだ十分とは言えず、目標の共有・共通理解にまでいたっていない状況である。

そこで、今回改善を加えた「学力向上実行プラン」について、あらゆる機会を通じて周知し、保護者や地域住民と共有するように努める。

【→P33 (様式) 平成〇〇年度 ◇◇学校「学力向上実行プラン」】

(3) 学校行事等への参加・協力

学校と保護者や地域住民が「協働」して活動することは、子どもたちの社会性の育ちや地域への愛着につながるとともに、学校を核とした地域ネットワークにより安全で安心できる生活環境が形成されるなど、大変意義深いことである。学校においては、保護者や地域住民が参加しやすい行事や学校を支援する取組等を実施し、コミュニケーションの促進を図るとともに、家庭・地域への積極的な情報公開が必要である。

4 外部人材の活用・社会とリンクした教育の推進

核家族化・少子化に伴い、家庭や地域において子どもたちが異年齢の人間と触れ合う機会が減少しているため、多様な人間関係の中で子どもたちの社会性を育むことが求められており、関係諸機関・NPO・企業・大学等との連携を一層推進するとともに、学校を支援する人材バンクの充実・共有を図る必要がある。

また、児童生徒がはっきりとした目的意識をもって学習に取り組めるよう、活力ある地域の構築に奮闘している社会人・職業人と連携し、児童生徒に働くことの「意義」や「喜び」「厳しさ」などを伝える機会を設ける必要がある。こうした連携活動においては、指導の主体となる学校・教職員が、活動のねらいや目的等を十分に伝え、共通理解を図ることが大切である。

(1) 大学等との連携を通じた学習支援等の活用

現在、県内の大学生等による学習支援や理科における実験等の補助、英語教育を専攻とする学生による外国語活動の授業における支援、留学生や日本語指導を専攻している学生による帰国・外国人児童生徒への支援など、様々な場面で大学等との連携が行われている。小・中学校にとっては、担任をサポートする人的な支援が得られるとともに、学生たちにとっては、インターンシップと社会的貢献の機会ともなっており、今後さらに推進していく必要がある。

(2) キャリア教育の充実

キャリア教育とは、児童生徒が将来社会の一員としての役割を果たすとともに、それぞれの個性、持ち味を最大限発揮しながら、自立して生きていくために必要な能力や態度を育てる教育である。キャリア教育と学力向上とは相互補完の関係にあり、日々の教育活動において、学校での学習と将来とを結び付けた取組を行うことは、学習に対する目的意識や学習意欲を向上させることにもつながるものとして捉えることが大切である。各学校においては、このような視点に立ち、発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育を実施するとともに、体験的な活動を充実させることにより、児童生徒の社会的自立のために、必要な能力や態度を育成することが重要である。

キャリア教育で育成すべき力として、次のような基礎的・汎用的能力が挙げられる。

◇人間関係形成・社会形成能力

他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーション・スキル等

◇自己理解・自己管理能力

自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力等

◇課題対応能力

情報の理解・選択・処理等、原因の追究、課題発見、計画立案、実行力、評価・改善等

◇キャリアプランニング能力

学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、行動と改善等

【4つの方策を実施するための県教育委員会の主たる取組】

方策1 組織マネジメントの確立に向けた取組の推進

◇学校・家庭・地域が、育てるべき本県児童生徒像を共有するために

【県教委の取組1】

- 「阿波っ子 学びのススメ10か条」の作成・提示

◇PDCAサイクルを更に充実させるために

【県教委の取組2】

- 「学力向上実行プラン」様式の作成・提供
 - ・作成方法及び『学力向上実行プラン』に沿った取組等の流れの提示
 - ・県の指標、成果指標(例)、取組指標(例)の明示
- 徳島県版「学力・学習状況調査」(徳島県学カステップアップテスト)の実施及び集計・分析ソフトの提供

方策2 教育の質の向上

◇「活用」する力を育成するための研修の充実及び授業改善を実施するために

【県教委の取組3】

- 「各教科等における『平成25年度の重点』」の作成・提示
 - ・各機関における研修内容等の充実と優れた実践例の紹介
 - ・学校訪問等における研究授業・研究協議などの充実
- 学力調査結果に基づくフォローアップ教材の開発・提供

◇校種間連携を推進するために

【県教委の取組4】

- 幼・小・中連携推進事業「学びのかけ橋」プロジェクトの継続実施

◇児童生徒とかかわる時間を確保するために

【県教委の取組5】

- 児童生徒にかかわる時間の確保についての検討の継続実施

方策3 家庭・地域と連携し、一体となった取組の推進

◇学校・家庭・地域が、情報を共有し、協力できるように

【県教委の取組6】

- 「あわ(OUR)教育発表会」の実施
 - ・特色ある教育活動を展開している幼稚園・学校等が取組等について発表
- 広報誌やホームページ等による本県教育活動の広報

方策4 外部人材の活用・社会とリンクした教育の推進

◇外部人材の一層の活用を推進するために

【県教委の取組7】

- 人材バンクの更なる充実及び学校への情報提供

◇キャリア教育を更に充実させるために

【県教委の取組8】

- 各機関が実施するキャリア教育に関する研修の充実

【主として「活用」(B問題)に関する本県の指標】

全国学力・学習状況調査における国語、算数・数学の「主として『活用』に関する問題」(B問題)の本県平均正答率が、それぞれ全国平均正答率以上になる。(H29)

【「4つの方策」に関する本県の指標(例)】

○の項目は取組指標

【組織マネジメントの確立に向けた取組の推進】

○1 学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員で共有し、取組に当たっている。「よくしている」の回答率〔学校質問紙〕

小学校 H24 57.5% → H29 100% 中学校 H24 29.6% → H29 100%

【教育の質の向上】

○2 児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている。「よく行った」の回答率〔学校質問紙〕

小学校 H24 23.0% → H29 30% 中学校 H24 17.6% → H29 25%

○3 児童の発言や活動の時間を確保して授業を進めている。

「よく行った」の回答率〔学校質問紙〕

小学校 H24 36.4% → H29 40% 中学校 H24 16.0% → H29 30%

○4 児童生徒が自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしている。「よく行った」「どちらかといえば行った」の回答率〔学校質問紙〕

小学校 H24 87.5% → H29 92.5% 中学校 H24 82.9% → H29 88.5%

○5 模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っている。

「よくしている」の回答率〔学校質問紙〕

小学校 H24 47.4% → H29 60% 中学校 H24 22.3% → H29 40%

○6 あなたの学校では、教科の指導内容や指導方法について近隣の中学校(小学校)と連携(教師の合同研修、教師の交流、教育課程の接続など)を行っているか。

「はい」の回答率〔学校質問紙〕

小学校 H24 54.6% → H29 80% 中学校 H24 45.3% → H29 80%

○7 前年度の全国学力・学習状況調査の問題冊子等や地方公共団体における独自の調査等の結果を、調査対象学年・教科だけでなく学校全体で教育活動を改善するために活用した。

「よく行っている」「行っている」の回答率〔学校質問紙〕

小学校 H24 85.0% → H29 100% 中学校 H24 70.4% → H29 100%

【家庭・地域と連携し、一体となった取組の推進】

○8 保護者からの意見や要望を聞くために、学校として懇談会の開催やアンケート調査を前年度にどれくらい実施したか。「年間に3回以上実施した」の回答率〔学校質問紙〕

小学校 H24 44.2% → H29 70% 中学校 H24 56.6% → H29 70%

【外部人材の活用・社会とリンクした教育の推進】

○9 地域の人材を外部講師として招聘した授業を行ったか。

「よく行った」「どちらかといえば行った」の回答率〔学校質問紙〕

小学校 H24 84.1% → H29 90% 中学校 H24 51.9% → H29 60%

【「阿波っ子 学びのススメ10か条」に関する本県の指標(例)】

○の項目は取組指標 □の項目は成果指標

- 1 児童生徒に対して、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えている。
 (「よく行った」の回答率)[学校質問紙]
 小学校 H24 33.7% → H29 40% 中学校 H24 18.1% → H29 25%
- 2 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするのは難しい。
 (「難しいと思う」の回答率)[児童・生徒質問紙]
 小学校 H24 31.4% → H29 25.0% 中学校 H24 42.4% → H29 35.0%
- 3 普段の授業では、児童生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思うか。
 (「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の回答率)[児童・生徒質問紙]
 小学校 H24 73.8% → H29 80% 中学校 H24 44.1% → H29 60%
- 4 学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど)の維持を徹底している。(「よく行った」の回答率)[学校質問紙]
 小学校 H24 54.6% → H29 65% 中学校 H24 60.8% → H29 65%
- 5 学校の授業の復習をしているか。(「している」の回答率)[児童・生徒質問紙]
 小学校 H24 20.9% → H29 30% 中学校 H24 15.8% → H29 25%
- 6 将来の夢や目標をもっている。
 (「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の回答率)[児童・生徒質問紙]
 小学校 H24 85.1% → H29 90% 中学校 H24 74.6% → H29 80%
- 7 1日10分以上読書をする児童生徒の割合
 小学校 H24 70.1% → H29 80% 中学校 H24 58.1% → H29 70%
- 8 普段(月曜日から金曜日)、何時ごろに起きるか。
 (「午前7時より前」の回答率)[児童・生徒質問紙]
 小学校 H24 86.0% → H29 90% 中学校 H24 71.8% → H29 75%
- 9 学校や地域であいさつするよう指導している。(「よく行った」の回答率)[学校質問紙]
 小学校 H24 86.0% → H29 90% 中学校 H24 75.1% → H29 80%
- 10 家の人に学校での出来事について話をする。
 (「している」「どちらかといえばしている」の回答率)[児童・生徒質問紙]
 小学校 H24 73.4% → H29 76% 中学校 H24 62.3% → H29 66%

第Ⅱ章 課題解決に向けた具体的な取組

I 「学力向上実行プラン」

1 「学校版：『学力・学習状況』改善プラン」の成果と課題

各学校においては、「徳島県学校改善支援プラン」に基づき、児童生徒の学力・学習状況の課題に応じた「学校版：『学力・学習状況』改善プラン」を作成し、学校自らが主体的に改善プランに沿った取組と検証改善を継続的に行っている。そうした中で、改善プランの具体的目標、数値目標が前年度の課題を踏まえた細かな目標として設定され、具体的方策の内容がより児童生徒の実態に即した具体性のあるものとなってきている。

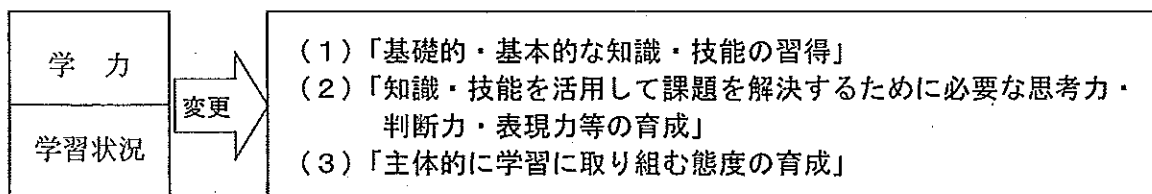
このように、学校全体での組織的な取組が継続され、各学校における創意工夫が図られてきたことにより、「学校版：『学力・学習状況』改善プラン」に沿った検証改善サイクルが全県的に浸透してきた。

しかしながら、現状分析と課題把握において、学力や学習状況の捉えが曖昧となり、具体的目標等が整理されていない状況がみられている。また、学校によっては、特に本県児童生徒の課題である「習得した知識・技能を活用する力」の育成に向けた計画・実践が十分に検討されていない状況がみられたり、全教職員に対するプランの周知が十分でなく、定期的なPDCAサイクルにプランが生かし切れていない状況もみられたりしている。

2 PDCAサイクルの更なる充実に向けて

こうした成果と課題を踏まえ、PDCAサイクルの更なる充実に向けた各学校におけるプランづくりと取組を支援するため、「学校版：『学力・学習状況』改善プラン」を改め「学力向上実行プラン」として提示する。

(1) 「学力向上実行プラン」における様式の構成



【→P33 (様式) 平成〇〇年度 ◇◇学校「学力向上実行プラン」】

(2) 「具体的方策(教員の取組)」の策定・実践等に参考となる、「各教科等における『平成25年度の重点』」を提示する。

【→P39 各教科等における「平成25年度の重点」】

さらに、全ての教職員が共通理解のもとに「学力向上実行プラン」を共有し、校長のリーダーシップのもと、年間を通したPDCAサイクルにおいてプランの活用を図るため、「学力向上実行プラン」に沿った取組等の流れを明確にする。

【→P38 「学力向上実行プラン」に沿った取組等の流れ】

(様式)

平成〇〇年度 ◇◇学校「学力向上実行プラン」

1 学力向上検討委員会構成

学 力 向 上 検 討 委 員		
	職 名 ・ 校 務 等 担 当 名	氏 名
管理職		
学力向上推進員		
委員		

2 学力・学習状況における現状分析, 目標等

(1) 基礎的・基本的な知識・技能の習得

児 童 生 徒 の 状 況		
よ さ	課 題	
具体的目標(目指す子どもの姿)		成果指標
		達成状況
		評価
具体的方策(教員の取組)		取組指標
		取組状況
*中間期の見直し		
達成状況を踏まえた改善事項		

(2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況		
よさ		課題
具体的目標(目指す子どもの姿)		成果指標
		達成状況
		----- 評価
具体的方策(教員の取組)		取組指標
		取組状況
----- *中間期の見直し		
達成状況を踏まえた改善事項		

(3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況		
よさ		課題
具体的目標(目指す子どもの姿)		成果指標
		達成状況
		----- 評価
具体的方策(教員の取組)		取組指標
		取組状況
----- *中間期の見直し		
達成状況を踏まえた改善事項		

【学力向上実行プランについて】

【留意点】

- ◆全教職員が共有し、組織的・協働的な取組に生かせるプランとなるよう作成する。
- ◆各学校が目指す子どもの姿、「阿波っ子 学びのススメ10か条」及び成果指標を踏まえた現状分析、目標の設定となるよう留意する。
- ◆具体的目標等の数、プランのページ数は、各学校の実態に応じて設定する。
- ◆作成したプラン及び更新内容については、随時、学校ホームページに掲載し、家庭・地域に対して情報提供を行い共有を図る。

1 「学力向上検討委員会」の組織

学 力 向 上 検 討 委 員 会		
	職 名 ・ 校 務 等 担 当 名	氏 名
管理職		
学力向上推進員 委員		

【ポイント】

- *管理職がリーダーシップをとる組織体制とする。
- *学力向上を目指した組織的な取組を推進する中心的な役割として、学力向上推進員を指名するとともに、学力向上検討委員会全員の課題・役割等を明確にする。
- *全教職員の意見が反映できる組織体制とする。

2 現状分析

児 童 生 徒 の 状 況			
よ		課	
さ		題	

【ポイント】

- *昨年度の取組の結果からみられる課題とその改善のための具体的方策を踏まえ、児童生徒の学力・学習状況について分析し、「よさ」、「課題」を明確にする。
- *「全国学力・学習状況調査」及び徳島県版「学力・学習状況調査」結果等の客観的なデータに基づき、学力向上推進員を中心に、全ての教職員がかかわり分析を行う。
- *調査対象学年・調査対象教科だけの課題として捉えることなく、学校全体としての課題把握を行う。

3 具体的目標・成果指標の設定

具体的目標(目指す子どもの姿)	成果指標	達成状況
		評価

【ポイント】

①「具体的目標(目指す子どもの姿)」の設定

- *「阿波っ子 学びのススメ10か条」を参考に、各学校が目指す子どもの姿を設定する。
- *各学年の児童生徒の発達段階に応じた具体的な目標とし、学年間の系統性を考慮する。

②「成果指標」の設定

- *『阿波っ子 学びのススメ10か条』に関する本県の指標(例)を必要に応じて参考にし、各学校独自に、年度内に達成を目指す子どもの姿を数値化し記述する。
- *全ての児童生徒を対象とした指標として設定し、学力向上や学習習慣等の改善が、「全国学力・学習状況調査」、徳島県版「学力・学習状況調査」の結果や各学校独自の調査結果等の客観的なデータを用いて検証できるものとする。

4 具体的方策・取組指標の設定

具体的方策(教員の取組)	取組指標	取組状況
*中間期の見直し		

【ポイント】

①「具体的方策(教職員の取組)」の設定

- *具体的目標(目指す子どもの姿)の達成を目指して、教員が取り組む方策とする。
- *各教科等における重点を参考に、教員の具体的な取組を記述する。
- *単なる教科単体の指導改善にとどまらず、学校教育全体としてのカリキュラムの工夫・改善や、学び合う集団づくり、学習時間の確保、指導技術の共有化や保護者等との連携といった視点も適宜取り入れる。

②「取組指標」の設定

- *『阿波っ子 学びのススメ10か条』に関する本県の指標(例)や、『4つの方策』に関する本県の指標(例)を必要に応じて参考にし、教員の取組の度合いを数値化し記述する。

5 中間期の見直し、達成状況・評価、取組状況、改善事項

中間期

具体的方策(教員の取組)	取組指標	取組状況
*中間期の見直し		

【ポイント】

*「全国学力・学習状況調査」結果の公表時期において、設定した成果指標に照らして、具体的方策(教員の取組)を見直し、適宜、以後の方策について記述する。

年度末

具体的目標(目指す子どもの姿)	成果指標	達成状況
		評価
具体的方策(教員の取組)	取組指標	取組状況
*中間期の見直し		
達成状況を踏まえた改善事項		

【ポイント】

①「取組状況」

*取組指標で設定した取組の実施状況を記述する。

②「達成状況」

*学校評価(自己評価・学校関係者評価等)のためのデータ等に基づき、成果指標に照らした年間の達成状況について記述する。

③「評価」

*次の4段階で年間の評価を行い、評価欄に記号を記入する。

- A: 目標を達成したため、次年度には新たな具体的目標等の再設定を行う。
- B: 目標を達成したため、次年度には成果指標を高めて引き続き取り組む。
- C: 目標を達成しなかったため、次年度には具体的方策を見直し引き続き取り組む。
- D: 目標を達成しなかったため、次年度には新たな具体的目標等の再設定を行う。

④「達成状況を踏まえた改善事項」

*具体的目標(目指す子どもの姿)や具体的方策(教員の取組)等について達成状況を踏まえた検証を行い、次年度のプランに反映させる改善策を明確にする。

*特に未達成の目標については、その理由等を明らかにし改善策を講じる。

「学力向上実行プラン」に沿った取組等の流れ

月	過程	学力向上検討委員会		教職員	◇県教育委員会 ◆文部科学省
		校長	学力向上推進員・学力向上検討委員		
4	<p>P 計画</p> <p>D 実践</p> <p>C1 評価</p> <p>A1 改善</p> <p>C2 評価</p> <p>A2 改善</p> <p>C 評価</p> <p>A 次年度へ反映</p>	学力向上検討委員会の組織づくり	●前年度の素案を基にした「学力向上実行プラン」の検討・作成	○校内研修等におけるプランの共通理解	◇提出されたプランの確認
5		指示確認 指示確認	★家庭・地域への情報の提供・共有 ＊PTA総会，学級懇談会，家庭訪問，学校通信等	○「全国学力・学習状況調査」の出題内容の確認	◆「全国学力・学習状況調査」実施
6		指示確認 指示確認	★プランを学校ホームページに掲載	★ホームページを利用した家庭・地域への情報の提供・共有	
7			○プランに基づく全教職員による取組 ↓		
8		指示確認 指示	●学力向上推進員による研修内容の伝達	○校内研修等で研修内容等の共通理解	◇「学力向上推進員研修会」開催
9		指示確認 指示確認	●自校の成果と課題の把握，評価 ●中間期におけるプランの見直し	○校内研修等における共通理解 ○校内研修等における見直しの共通理解	◆「全国学力・学習状況調査」結果を公表
10		指示確認	★プランの「具体的方策」中間期の見直しについて，学校ホームページ掲載の内容を更新	★ホームページを利用した家庭・地域への情報の提供・共有	◇学校ホームページでプランの更新を確認
11			○プランに基づく全教職員による取組 ↓		
12		指示確認 指示確認	●自校の成果と課題の把握，評価 ●プランの見直し・更新	○校内研修等における共通理解	◇徳島県版「学力・学習状況調査」実施
1			○プランに基づく全教職員による取組 ↓		
2		指示確認 指示確認	●学力向上推進員による研修内容の伝達 ●自校の成果と課題の把握，評価	○校内研修等で研修内容等の共通理解 ○校内研修等における共通理解	◇「学力向上推進員研修会」開催 ◇徳島県版「学力・学習状況調査」結果を公表
3		指示確認 指示確認 指示確認	○学校評価のためのデータ等に基づく年間の達成状況の評価・改善策の明確化		◇提出されたプランの確認
		指示確認 指示確認 指示確認	★学校ホームページのプランを更新 ●次年度の具体的目標等の検討・プラン素案の作成	★ホームページを利用した家庭・地域への情報の提供・共有	

II 授業改善に向けた取組の推進

自ら考え、判断し、表現できる子ども
～みんなでする つづけてする とことんする～

「現在求められている学力」を育成するため、各教科等における本県の課題及び目指す子どもの姿を明確にし、必要となる指導上の重点を絞り込むことで、各校における全ての教員の共通理解や組織的な協働を図り、授業改善に向けた積極的な取組の推進に資するため、各教科等における「平成25年度の重点」を作成する。

1 現在求められている学力

現在求められている学力

- 学習活動を支える基礎的・基本的な知識・技能
- 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等
- 主体的に学習に取り組む態度

育てるべき重点的な能力

- a 二つ以上の考えや意見を比較して、その共通点と相違点を明らかにする能力
- b 根拠を明らかにして自分の考えを説明する能力
- c 課題を解決するために、複数資料から必要な情報を選択・収集し、それを分類整理して、自らの考え・意見を表現する能力
- d 自らの思考過程を振り返り、その思考過程を説明・評価する能力

本県の重点課題

「言語活動の充実」～全ての教科等において、書く・話す活動の充実を図る～

- ・多様な意見や考えが生まれるような学習課題を設定する。
- ・相手や目的に応じた必然性のある表現活動を取り入れる。
- ・伝え合いの場面を積極的に設け、伝えたいことを整理して伝えさせる。
- ・自分の考えの根拠を明確にして書いたり話したりさせる。
- ・話し手の意図を捉えながら聞くことを指導する。
- ・作業や体験を通し、実感を伴って理解を深めることができる活動を取り入れる。

2 各教科等における「平成25年度の重点」

国 語	本県の課題	目指す子どもの姿
	<ul style="list-style-type: none"> ▼文章の内容や表現の特徴を捉え、目的や意図に応じ、条件に即して説明することに課題がある。 ▼目的に応じて、複数の資料を結び付けながら読んだり、必要な情報を取り出して活用したりすることに課題がある。 	➔
<p>①「付けたい力」を明確にした、「単元を貫く言語活動」の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇児童生徒の主体的な意識を生かし、単元を通して、付けたい力にふさわしい言語活動を位置付ける。 ◇書く機会や話す機会を増やす。相手や目的に応じて構成や記述を工夫したり、伝えたい事柄を明確にして自分の考えを伝え合ったりする機会を充実させる。 <p>②課題解決のための、様々な文章や資料を読む機会の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇課題意識をもたせ、その解決のために文章や資料を読む活動や目的に応じた効果的な読み方を選択する活動を取り入れる。 ◇朝の読書活動や、図書館を利用した望ましい読書習慣につながる学習活動を充実させる。 		

社会

本県の課題

- ▼社会的事象の意味や意義、事象の特色、事象間の関連をつかむ力を高める必要がある。
- ▼社会的事象に対して、主体的に問題解決できる力を高める必要がある。

目指す子どもの姿

- 必要な資料を選択し、社会的事象の意味や意義を解釈できる。
- 社会的事象に関心を持ち、自ら考え、自分の意見を説明できる。

①社会のしくみを理解するための学習の展開

- ◇地図や統計など各種の資料を読み取らせることで、社会の様子をつかませる。
- ◇「なぜ」、「どうして」という疑問をもたせ、児童生徒の意識の流れを考慮して、社会的事象の意味や意義をつかむ授業を構想し、社会のしくみを理解させる。

②児童生徒が主体的に問題解決する学習の充実

- ◇児童生徒の関心を高め、多様な意見が出てくる適切な学習問題を設定する。
- ◇問題解決のために、自ら考え、自分の意見を説明したり、話し合ったりする学習活動を充実する。

算数
数学

本県の課題

- ▼分数や小数、割合の意味理解が十分でない。
- ▼文字式を利用した説明や関数についての意味理解が十分でない。
- ▼自ら筋道立てて問題を解決する力が十分でない。

目指す子どもの姿

- 数量や図形に関する基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けている。
- 算数・数学を学ぶ意欲を高めたり、学ぶことの意義や有用性を実感したりすることができる。

①自力解決の場の保障と、練り上げの充実

- ◇自ら考える時間の確保を図り、思考力、判断力、表現力等を充実させる。
- ◇一人一人が考えたことを基に、学級で練り上げ、学び合わせる。

②ノート指導と板書の工夫

- ◇自ら考えたことをノートにまとめ、筋道立てて考えることができるよう指導の充実を図る。
- ◇比較検討した多様な考え方が分かりやすいよう、構造的な板書を工夫する。

理科

本県の課題

- ▼学習した内容に関する知識を活用し、日常生活に適用して考察したり説明したりすることが十分でない。
- ▼事物・現象をモデル等と関連付けて理解し、説明することなどが十分でない。

目指す子どもの姿

- 日常生活に見られる身近な事物・現象と理科で学習した知識・技能とを結び付けて考えることができる。
- 科学的に思考したことをモデル等を用いて表現し、思考を深めることができる。

①児童生徒の主体的な学習活動の充実

- ◇身近な事物・現象の中に問題を見だし、学習した内容と関連した課題を設定し、目的意識をもって、主体的に観察・実験を行う活動を充実させる。
- ◇日常生活に見られる現象を学習内容と関連させて考察する学習活動を充実させる。

②科学的に思考させ、表現させる学習活動の充実

- ◇思考したことを科学的な言葉や概念を使用し、図やモデルなどを用いて表現したり、説明したりする学習活動を充実させる。
- ◇観察・実験の前に予想や仮説を立て、観察・実験の後に考察を行う学習活動を充実させる。

生活

本県の課題

- ▼体験活動を通して得られた気づきの質を高めるための支援が十分に行われていないことがある。
- ▼一人一人の思考過程を丁寧に見取り、支援することが十分に行われていないことがある。

目指す子どもの姿

- 自分の思いや願いの実現に向けて、対象への働きかけや人とのかかわり方などを自分なりに考え、主体的に活動することができる。

①気づきの質を高める支援の工夫

- ◇対象にじっくりと繰り返しかかわり、試行錯誤したり納得のいくまで追究したりできる体験活動を設定する。
- ◇子どもの伝えたい思いを大切にしながら多様な表現活動を取り入れ、他者と伝え合い交流する場を充実させる。

②子どもに寄り添った見取りと支援

- ◇「指導と評価の計画」を作成し、学習活動や配当時間に応じて重点的に評価する場面を捉え、多様な評価方法で子どもの姿を多面的に見取っていく。
- ◇見取ったことに共感したり、意味付けたり、価値付けたりして、子どもに寄り添った支援に努める。

音楽

本県の課題

- ▼思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力が十分に育っていない。
- ▼曲想と音楽の要素の働きを関連させて感受する力が十分でない。

目指す子どもの姿

- 音楽のよさや美しさ、表現の工夫について、基礎的な技能を身に付けている。
- 音楽の要素やそれらの働きを捉え、それを手掛かりにしながら思考・判断し、音楽を豊かに表現したり鑑賞を深めたり、音楽づくり(創作)に生かす。

①ねらい・学習活動・評価の一体化

- ◇学習指導要領の指導内容を踏まえ、指導のねらいや手立てを明確にし、子どもが感性を高め、思考・判断し、表現する一連の過程を重視する。
- ◇評価規準を設定する際には、「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」を活用するなどして、ねらいや学習活動との整合性を図る。

②子どもの思いや意図を音楽活動に生かす学習の充実

- ◇〔共通事項〕を支えとして、思考・判断し、表現する一連の過程を大切にしながら授業づくりに努め、思いや意図をもって音楽表現したり、味わって聴いたりできるようにする。
- ◇感じ取ったことを基に試行錯誤し、言語活動などを通して築き上げた子どもの思いや意図を、歌唱・器楽・音楽づくり(創作)の活動の中で技能を高めながら表現する時間や場を設定する。

図画工作
美術

本県の課題

- ▼形や色、材料などの特徴を捉え、表現意図やねらいをもって表現したり鑑賞したりする能力が十分に育っていない。
- ▼日本や諸外国の美術について着目し、生活を豊かにする美術の働きや文化について理解することが十分でない。

目指す子どもの姿

- 形や色、材料などの特徴を感じ取り、豊かなイメージをもって表現活動や鑑賞活動に取り組むことができる。
- 日本及び諸外国の美術文化について理解し継承・尊重するとともに、美術が生活や社会を豊かにする働きを理解している。

①〔共通事項〕の適切な位置付けと、指導と評価の一体化

- ◇形や色、材料などを感じ取り、イメージを豊かに広げることができるよう発想や構想の場、鑑賞の場を工夫する。
- ◇学習のねらいを明確にし、評価規準を設定するとともに、いろいろな評価方法を工夫して、整合性のある指導と評価を行う。

②美術文化に対する関心を高め、生活や社会を豊かにする美術の働きについて理解を深める学習の工夫

- ◇我が国や諸外国の美術の表現方法や意識などに着目し、よさや美しさを理解したり、相違点や共通点を検討したりするなどして、我が国の文化を誇りをもって受け止め、異なる文化を尊重するよう指導する。
- ◇身の回りの生活で使われているものや掛け軸・ふすま絵などを基に、美術文化と関連付けた学習などを通して生活や社会を豊かにする美術の働きを理解させる。

家庭
技術・家庭

本県の課題

- ▼習得した知識及び技能(技術)を、生活の中で活用している児童生徒が少ない。
- ▼教科の特質を踏まえた言語活動の取組が十分でない。

目指す子どもの姿

- 習得した知識及び技能(技術)を生かして、生活における様々な問題を解決しようとしている。
- 生活における課題を解決するために、言葉や図表、概念などを用いて考えたり、説明したりすることができる。

①習得した知識及び技能(技術)を生活で活用する力の育成

- ◇習得した知識及び技能(技術)を、生活の中で工夫し創造しながら活用できるような題材・教材を開発・精選する。
- ◇授業で学ぶ知識及び技能(技術)が生活と深く結び付いていることを、実践的・体験的な学習活動を通して実感させる。
- ◇習得した知識及び技能(技術)を生活の様々な場面で活用できるよう、家庭や地域との一層の連携を図る。

②教科の特質を踏まえた言語活動の充実

- ◇言葉だけでなく、設計図や献立表といった図表及び衣食住やものづくりに関する概念などの教科特有の言語を用いて考えたり、説明したりするなどの学習活動を充実させる。
- ◇生活における事象やものづくりなどに関する実践的・体験的な学習活動を通して、様々な語彙の意味を実感を伴って理解させる。

体育
保健体育

本県の課題

- ▼新体力テストの結果から全国平均に満たない種目が多く、体力が十分身に付いているとは言えない。
- ▼運動する子としない子の二極化現象がみられる。
- ▼望ましい生活習慣が十分身に付いていない。

目指す子どもの姿

- 楽しく運動を行ったり、運動の楽しさ等に触れたりして、技能等を身に付けるとともに、仲間とかかわりながら、工夫して運動(学習)課題を解決できる。
- 生活リズムを大切に、健康で安全な生活を送ることができる。

①生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成

- ◇基礎的な身体能力が身に付くよう、指導内容の明確化と体系化を図る。
- ◇評価規準に基づいた客観的評価を実施し、その結果を指導改善や児童生徒への支援に生かす。

②体力向上のための指導の充実

- ◇体力を高める必要性を認識させ、その知識・技能が身に付くよう「体づくり運動」の充実を図る。
- ◇学習したことを学校の教育活動全体や実生活で生かすことができるよう指導の充実を図る。

③健康で安全な生活を送るための実践力の育成

- ◇自らの健康を適切に管理し、改善するための思考力・判断力などが身に付くよう指導を工夫する。
- ◇児童生徒が実生活で適切に判断し、健康・安全に行動できるよう指導の充実を図る。

道徳

本県の課題

- ▼自己の生き方や人間としての生き方についての考えを深め、自分のよさや課題に気付く学習が十分にできていない。
- ▼学年が上がるにつれて、自分自身のものの見方、考え方、感じ方を素直に表現できない。

目指す子どもの姿

- これからの自分に夢や希望をもち、伸ばしたい自己像や自己目標を意識して、社会的自立に向けてよりよく生きようとしている。
- 自らの思いを素直に表現し、自分とは異なる考えに接する中で、自分の考えを深め、自らの成長を実感することができる。

①豊かな学びで「生き方」を考える授業づくり

- ◇子どもの中に育てたい「芽」や「根」を、内面から揺り動かすことができるような学習が展開できるように、学習指導過程、指導構想、指導方法等を工夫した授業づくりに取り組む。

②表現し考えを深める授業づくり

- ◇自分の考えを基に書いたり話し合ったりするなどの表現する活動を充実させ、児童生徒が自分自身への問い掛けを深め、心の成長を実感できるようにする。

- ◇とことん話し合いを深める授業、豊かな体験活動と関連をもたせた授業、心に響く魅力的な資料を使った授業などにより、子どもと教師がともに考え、悩み、感動を共有していく道徳の時間とする。

外国語活動
英語

本県の課題

- ▼外国語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲や態度を育てる授業の一層の充実が必要である。
- ▼英語を得意とする生徒と、不得意とする生徒の二極化がみられる。

目指す子どもの姿

- 外国語を通じて積極的に人とかかわったり、人とかかわることの大切さを感じとったりしている。
- 英語の学習に対して意欲的に取り組むとともに、コミュニケーションの手段として英語を活用できる。

①「コミュニケーションの場面や内容」の充実

- ◇児童生徒が積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲をもてるような、コミュニケーションの場面や内容の設定を工夫する。
- ◇中学校では文法事項をコミュニケーションを支えるものとして捉え、実際のコミュニケーションの場面で活用することを通して定着を図る。

②「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能の総合的な育成

- ◇中学校では語彙・文法事項等の確実な定着を図るとともに、教科書の内容等を効果的に扱い、4技能のバランスのとれた育成を図る。
- ◇英語の学習に対して意欲や充実感が高まるような言語活動や評価を行う。

総合的な学習の時間

本県の課題

- ▼問題解決的な活動が発展的に繰り返されるような探究的な学習となっていないことがある。
- ▼体験したことや収集した情報を基に話し合ったり、整理・分析したりする活動が十分に行われていないことがある。

目指す子どもの姿

- 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決しようとしている。
- 友達と一緒に活動したり話し合ったりしながら、自己を振り返り、自分の考えや意見を再構築している。

①探究的な学習としての充実

- ◇探究的な学習の過程（「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」）が発展的に繰り返されていくような学習活動を重視する。
- ◇多様な方法で収集した情報を、種類ごとに分類したり、細分化して因果関係を導き出したり、批判的・複眼的な視点で分析したりして、思考する活動へと高める。

②体験活動と言語活動の充実

- ◇体験活動を問題の解決や探究活動の過程に適切に位置付けるとともに、互いに教え合い学び合う活動や地域の人との意見交換や交流活動など、他者と協同して課題を解決しようとする学習活動を重視する。
- ◇体験したことや収集した情報を、言語により整理したり分析したりして考え、それをまとめたり表現したりして自分の考えを深める学習活動を重視する。

特別活動

本県の課題

- ▼学校や学級における生活上の諸問題を、言葉や話し合いを通して解決しようとする活動が十分に展開されていない場合がある。
- ▼異学年、幼児、高齢者、地域の人々など、異年齢の人たちとの交流活動を効果的に展開する必要がある。

目指す子どもの姿

- よりよい人間関係を築く力を身に付けているとともに、自分のよさに自信をもっている。
- 他者のよさや可能性に気づき、互いの考えや立場を尊重しながら協力しようとしている。

①問題解決を図る話し合い活動の充実

- ◇必要性のある議題や題材を設定し、話し合いを深めるため、適切な指導や支援に努める。
- ◇全体計画や年間指導計画の改善を図るとともに、活動状況が分かるように掲示物等の環境構成を工夫する。

②多様な考えをよりよい方向へまとめていく活動の充実

- ◇実践や体験を通して感じたり、気付いたりしたことを振り返り、言葉でまとめたり、発表し合ったりする活動を重視する。

委員長による提言

本会議では、平成20年3月に策定された「徳島県学校改善支援プラン」以降の県教育委員会並びに各学校の取組と、児童生徒の学力・学習状況等についての分析を踏まえ、今後の徳島県における学力向上の在り方について議論を行ってきた。

学力向上というテーマは、ともすると教育方法・技術の問題として扱われる傾向が強いように思われるが、本会議での主要な論点は、むしろ、学校の組織的な教育力を高めることの必要性とその方策にあったように思われる。つまり、「みんなでする つづけてする とことんする」というキャッチフレーズを具現化する学校づくりのための方策が議論の中心であった。会議では極めて率直な意見交換がなされたが、その経過を踏まえ、学校教育関係者の方々に特に以下の諸点に留意していただきたいと思う。

第1は、それぞれの学校の児童生徒の学力・学習状況等の現状（児童生徒のよさと問題）をまず明確にいただき、教職員、保護者とともに共有していただきたいということである。つまり、学校の児童生徒の現状把握をきちんとした上で、「自校の」課題を焦点化して打ち出していきたいということである。

第2には、自校の課題の解決に向けて、教職員が協働して取り組んでいただきたいということである。特に管理職の方については、学校組織マネジメントの考え方と方法論を踏まえて、学校の組織的な教育力を高めるようにしていただきたい。本会議において、最も多く議論されたのは、この点であったように思われる。

第3は、保護者や地域の方々と学校の課題を共有し、それらの方々とともに、徳島県の将来を担う児童生徒の教育に取り組んでいただきたいということである。

本報告書においては、特に上記の第2番目の点について学校における取り組み方やそのためのプランづくりについて、具体的にかつ焦点化して記述を行っている。本報告書が学校で活用され、その組織的な教育力の向上につながることを期待するものである。学力テストの点数に一喜一憂するのではなく、児童生徒と教職員、教職員集団、学校と家庭・地域、これらの中に信頼のネットワークをしっかりと築き、児童生徒一人一人の伸びていこうとする意欲と意思を育み支える学校づくりが促進されることを期待したい。

最後に、本会議の議論に真摯にかつ積極的に協力していただいた委員各位に心から感謝を申し上げたい。

徳島県学校マネジメント・学力向上戦略会議委員一覧

岡本 清美	香川 朗	柿内 慎市
小島 信子	近藤 辰夫	近藤 芳夫
坂口 裕昭	佐古 秀一(委員長)	佐光 恵子
里美 文子(副委員長)	田岡 佳美	高橋 博義
富樫 敏彦	戸川 洋子	坂東 笑子
前田 幸宣	松村 勝子	三木 康弘
三谷 徹	山本 久美	※50音順(敬称略)

